

GP Server

操作マニュアル



ジャストウェア株式会社

はじめに

パッケージの内容	1
動作環境	1
セットアップ	2
ハード ID キーに関する説明	2
WINDOWS XP SP2 ファイアウォール設定の注意点	6
フォント使用に関する注意点	8

第 1 部 GPサーバー

「GPサーバー」ソフトとは	10
GPサーバーの機能	11
GPサーバーのフォルダ構造とデータ管理について	12
各機能の利用にあたって	13
通信の前に	13
初期設定	13
外部データポーリング	14
外部データポーリング設定	15
テキスト区切り設定	15
まとめ：各機能と設定の関係	15
メニュー・項目に関する説明	16

第 2 部 フォーマット作成

フォーマット作成とは	20
機 能	20
画面の構成	22
アイテムの種類とその設定方法	26
アイテムの分割	27
属 性	27
アイテムの設定モード	28
アイテム設定ボタン	29
フォーマットの作成 Part1	35
ラベルサイズの設定	35
データベースの設定	36
罫線・枠の設定	37
文字列の設定	39
連番の設定	42
バーコードの設定	43
図形の設定	44
日付と時刻の設定	45
フォーマットの保存	46
フォーマットの作成 Part2	47
計算結果を印字させたい場合	47
賞味期限を印字させる場合 1	49
賞味期限を印字させる場合 2	50

図形の設定（データベースに登録されている場合）	51
金額を集計したい場合	52
ラベル発行時の履歴を取りたい場合	53

第 3 部 データベース管理

データベースとは	56
画面の構成	57
新規作成	58
オプションの設定	59
データベースの設定方法	60
リスト画面の操作方法	62
画面のスクロール	60
グループの選択	63
アイテムとデータ項目の追加と変更	63
データの入力と変更	64
ファイル名参照入力	64
データ項目の移動	65
テキストファイルに書出す・読込む	66
テキスト区切りの設定	66
テキストファイルに書出す	67
テキストファイルを読込む	67
外部データベースのアクセス方法	69
ODBC のデータソース名を登録する方法	69
作成したデータベースファイルを印刷する	71
スケジュールファイルについて	72
プリセット（短縮コード）について	74

第 4 部 履歴管理

履歴データ管理	78
履歴データの新規作成	78
データ集計画面表示の設定	78
データ項目の設定	79
データ集計画面と分析について	80
集計範囲の設定	80
並び替え	80
明細合計表示	81

第 5 部 GPデータファイル変換

GPデータファイル変換とは	84
画面の構成	85
ファイル自動変換の設定	86

第 6 部 外部フォント作成

外部フォントの作成方法	87
オプションの設定	88
フォーマットでの外部フォントの使い方	89

はじめに

この度は、アプリケーションソフト「GPサーバー」をお買い上げ頂きありがとうございました。

「GPサーバー」は、Windows 98 Second Edition／ME／NT、Windows 2000 及び Windows XP の上で稼動する、GPシリーズネットワークプリンタ向け、ラベル発行データ管理システムです。本書では、「GPサーバー」の導入や各プログラムの使い方について説明しています。「GPサーバー」の機能、操作、設定方法をご理解いただくために、ご使用前には必ず本書をよくお読みください。本書が皆様のお役に立つことを願っております。

ご注意：

1. このソフトウェアに重大な^{かし}瑕疵が発見された場合は、無償で交換します。
2. このソフトウェア及びマニュアルを運用した結果の影響については、一切責任を負いかねますので、ご了承下さい。
3. このソフトウェアの仕様、及びマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。
4. このソフトウェアを利用するには、ID キーが必要です。ID キーを紛失した場合、販売店に紛失届を出せば、ID キーの再発行が可能です。但し、再発行は有料になります。ID キーについてはP2の「ID キーに関する説明」をご覧ください。

パッケージの内容

「GPサーバー」のパッケージの内容は以下の通りですので、ご確認ください。

- ・「GPサーバー」CD-ROM 1 枚と USB タイプ ID キー 1 個
(但し、USB タイプの ID キーが使用できない PC の場合、無償で LPT タイプに交換します。)
- ・操作マニュアル 1 冊
- ・ユーザー登録カード 1 枚

動作環境

- ・対応機種：DOS/V PC (デスクトップパソコンとノートパソコン)
- ・CPU：Pentium 100MHz 以上
- ・OS：Windows 98 Second Edition、ME、NT (SP4)、2000、XP
(Windows 98 の場合には I E 4.0 以上のバージョンが必要になります。)
- ・メモリ：64MB 以上
- ・ディスプレイ：Windows 対応のカラーディスプレイ (解像度 800×600 以上 推奨)

はじめに

- ・インターフェース：LAN インターフェース 1 個以上、USB インターフェース又は LPT（プリンタポート）1 個以上
- ・ハードディスク：空き容量 4 0MB 以上
- ・マウス：Windows 対応マウス
- ・日本語 FEP：Windows 対応の日本語変換システム
- ・ラベルプリンタ：（株）寺岡精工製ネットワークラベルプリンタ GP-4000α、GP-460R、GP-460RII

セットアップ (Windows 98 SE/ME/NT/2000/XP)

1. 必ず「GP サーバー」を PC にインストールしてから USB キーを PC に差し込んでください。
2. お使いのパソコンで Windows 98 SE/ME/NT/2000/XP を起動します。
3. 「GP サーバー」のセットアップ CD-ROM を CD-ROM ドライブ（例えば D）にセットします。
4. 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
5. 名前に、「d:\¥setup」と入力し、「OK」ボタンをクリックします。
6. ID キーの上を書いてある「ユーザーID」を入力し、「次へ」ボタンをクリックします。
7. 「インストール先のディレクトリ名」を入力します。デフォルトは「c:\¥gpserver」になります。
7. 「次へ」ボタンをクリックすると、インストールが始まります。
8. 「GP サーバー」が既にインストールされている場合、「古い環境のパラメータを引き継ぎますか？」という確認メッセージが表示されます。以前使っている環境をそのまま使いたい場合に「はい」を選んで、そうでなければ、「いいえ」を選んでください。
9. インストールが終了したら、「完了」ボタンをクリックします。「スタート」→「プログラム」の中に「GP サーバー」のメニューが登録され、その中に「GP サーバー」、「フォーマット作成」、「データベース管理」、「履歴データ管理」、「外部フォント作成」、「GP データファイル変換」と「アンインストール」の 7 つのメニューが登録されます。

ハード ID キーに関する説明

ID キーとは、「GP サーバー」をご利用頂く為のライセンスです。ID キーがなければソフトを利用することはできません。今までのバージョンでは FD に入っているソフト ID キーを使っていましたが、ソフト ID キーが紛失しやすいという問題があり、「GP サーバー」の 1.10 からハード ID キーに切り換えました。

ハード ID キーは USB タイプと LPT タイプの二種類あります。USB タイプはパソコンの USB

はじめに

ポートに差し込んで使い、LPT タイプはパソコンのプリンタポートに差し込んで使います。出荷時に USB タイプの ID キーを同梱しています。お使いのパソコンに USB ポートが無い場合は、販売代理店を通じて LPT タイプの ID キーに無償で交換します。



USB ポートに接続タイプ (USB タイプ)



プリンタポートに接続タイプ (LPT タイプ)

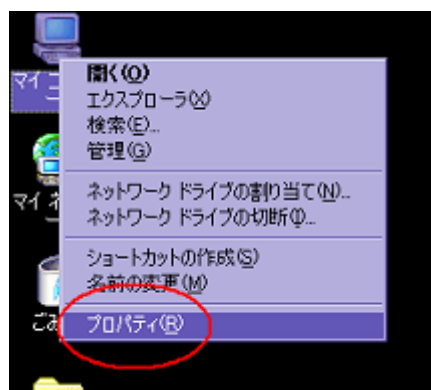
● ID キードライバのインストール

ドライバは、「GPサーバー」をインストールする際に自動的にインストールされるので、必ず「GPサーバー」をインストールした後に ID キーをポートへ差し込んで下さい。

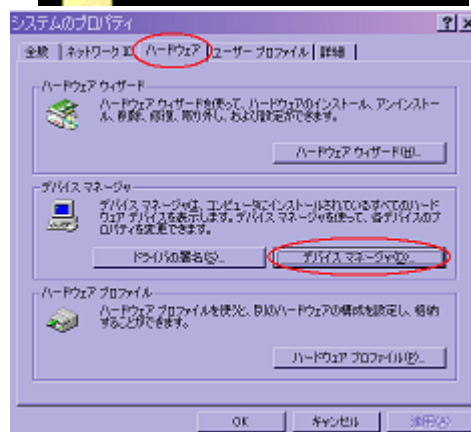
● ID キードライバの確認手順

1. Windows 2000/XP の場合

① 「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。



② システムのプロパティにある「ハードウェア」をクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。



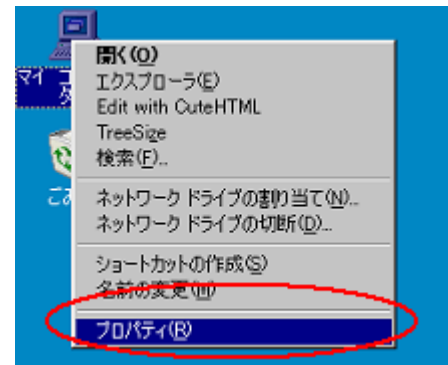
③ デバイスマネージャにある「USB (Universal Serial Bus)コントローラ」をクリックし、SenseLock USB Lock があり、更に何のマークも付いていなければ、キードライバが正常にインストールされていることになります。



はじめに

2. Windows 98/ME の場合

- ①「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。



- ②システムのプロパティにある「デバイスマネージャ」をクリックします。

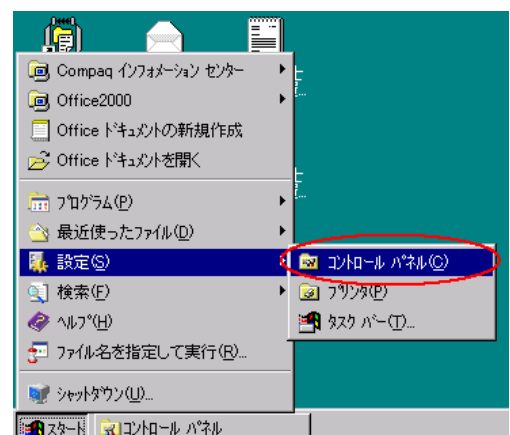


- ③デバイスマネージャにある「ユニバーサル シリアル バス コントローラ」をクリックし SenseLock USB Lock があり、更に何のマークも付いていなければ、キードライバが正常にインストールされていることになります。



3. Windows NT の場合

- ①「スタート」ボタンをクリックして「設定」の「コントロールパネル」をクリックします。



はじめに

- ②コントロールパネルにある「デバイス」をクリックします。



- ③デバイス一覧に「SENSE3」があり、しかもその状態が「開始」、スタートアップが「自動」であれば、キードライバが正常にインストールされていることとなります。



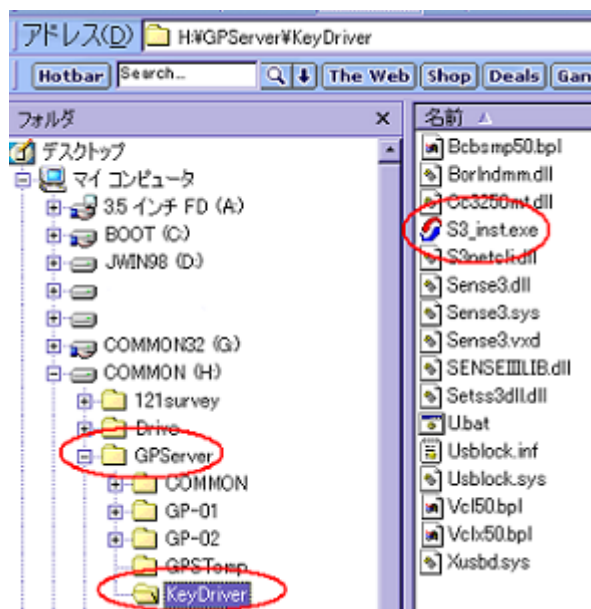
● ID キードライバの手動インストール

ID キーを「GPサーバー」のインストールする前にポートに差し込むと、ID キードライバがうまくインストールできない場合があります。また、パソコン機種や OS タイプによって自動インストールがうまく行かない場合もあります。そのような場合、ID キーを一旦ポートから抜いてから、手動で ID キードライバをインストールする必要があります。手動インストールの手順は次の通りです。

- ①「エクスプローラ」を起動し、

「GPサーバー」がインストールされているフォルダーを開きます。

- ② そのフォルダー内にある「KeyDriver」をクリックして、そのフォルダー内にあるプログラム「S3_inst.exe」をダブルクリックします。そうすると、マウスの形が砂時計になり、何秒か経つとまた元の形に戻ります。それでインストールが完了します。



はじめに

手動インストールが完了後に、再度 ID キーをポートに差し込んでドライバがインストールされたかどうかを御確認下さい。

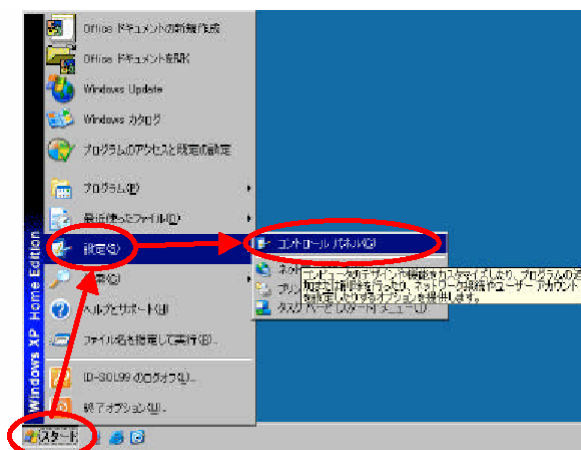
●ハード ID キーの使い方に関する注意事項

1. ノートパソコンがスタンバイ／サスペンドモードに入ると、ID キーの電源も切られてしまい、通常モードに戻っても ID キーが正常に動作しない場合があります。この問題を回避する方法が二つあります。一つは、ノートパソコンの電源設定にスタンバイ／サスペンドモードを無効に設定する方法です。もう一つは、スタンバイ／サスペンドモードから通常モードに戻った後に、ID キーを一旦抜いてから再度差し込む方法です。
2. 「GPサーバー」を使う時は、必ず ID キーをパソコンのポートに差し込んでから、「GPサーバー」を起動して下さい。もし ID キーを差し込まない状態で「GPサーバー」を使用すると、10日間後にラベル発行ができなくなりますのでご注意下さい。ID キーを付けずにラベル発行ができる日数は累計10日間です。
3. ID キーの品質不良、寿命切れ又は自然災害によって壊れた場合、壊れた ID キーを弊社にご返送いただければ無償で交換します。それ以外の原因で壊れた場合、壊れた ID キーを弊社にご返送いただければ、新しい ID キーを再発行します。但しこの場合は実費をお支払いいただくこととなりますので、ご了承下さい。尚、詳細は販売店へお問合せ下さい。
4. ID キーは「GPサーバー」の使用権利なので、紛失しないように大事に管理してください。万が一紛失した場合は、紛失届を記入し使用部署の印鑑を押して販売店に提出し、再発行の申請を行って下さい。その場合、ライセンスの再発行となり、有償となりますのでご了承下さい。尚、詳細は販売店へお問合せ下さい。

WINDOWS XP SP2 ファイアウォール設定の注意点

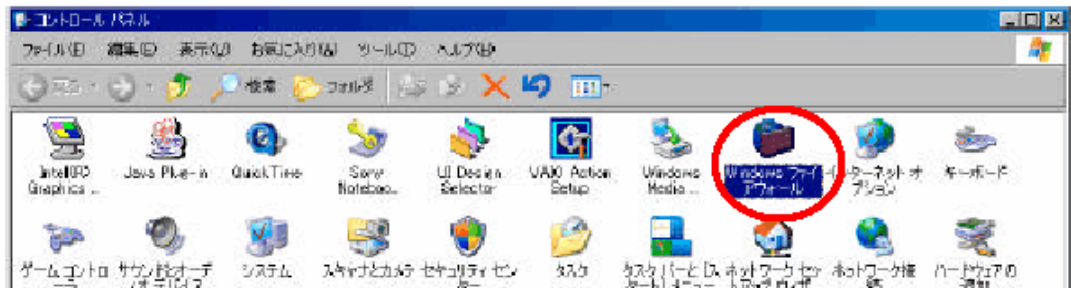
接続プリンタに4000Z eまたは460RSeを使用する場合で、通信エラーが発生し、PING コマンドが正常な場合、次の確認をして下さい。

- ①「スタート」⇒「設定」⇒「コントロールパネル」をクリックします。

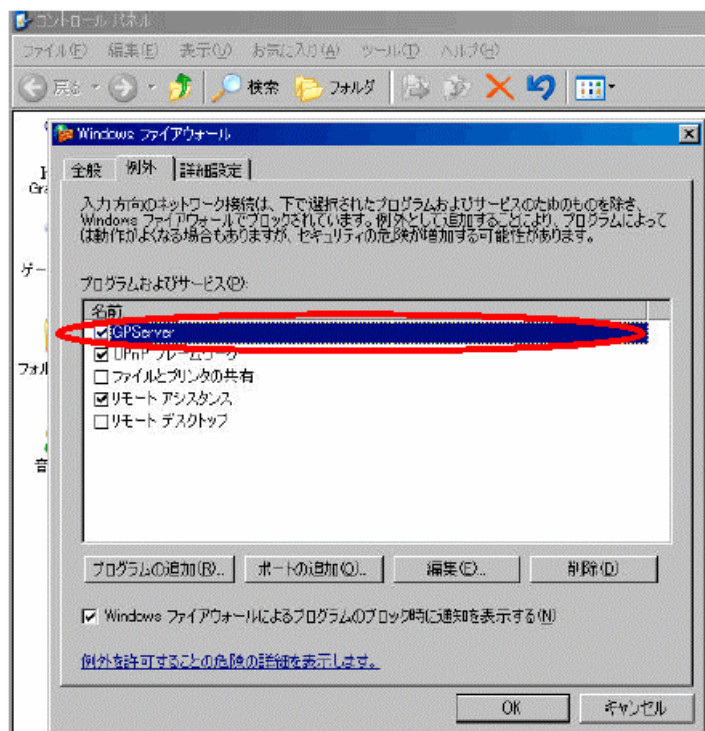


はじめに

- ② WINDOWSファイアーウォールをダブルクリックします。



- ② ファイアーウォール設定の一覧から例外タブをクリックし、□GP Serverに必ずチェックを入れます。



※ チェックが外れていると、
通信できなくなります。
必ずご確認ください。

フォント使用に関する注意事項

毎度、弊社製品をご利用いただきありがとうございます。

CDに納められているフォント使用において下記の点につきまして十分ご注意くださいよう、よろしくお願い申し上げます。

「GP サーバー」で作成されたラベルフォーマットを、(株)寺岡精工製ラベルプリンタで印刷を行う場合、「GP サーバー」セットアップ CD-ROM に納められているフォント（下記参照）に限っての使用およびサポートとなります。

下記フォント以外を使用する場合の印刷においては、お客様の責任にて行い、弊社は一切のトラブル、および不具合に関しての責任を負いかねますので、予めご了承ください。

（使用可能文字フォント一覧）

- | | |
|------------------|-----------|
| ・ 平成明朝体 TM W3 | ・ 正楷書体 |
| ・ 平成明朝体 TM W9 | ・ 小沢楷書体 |
| ・ 平成角ゴシック体 TM W3 | ・ 白州太楷書体 |
| ・ 平成角ゴシック体 TM W5 | ・ 創英ペン字体 |
| ・ 平成角ゴシック体 TM W7 | ・ 白州ペン楷書体 |
| ・ 平成角ゴシック体 TM W9 | ・ 教科書体 |
| ・ れいしっく | ・ 半古印体 |
| ・ ブーケ | ・ 創英角ポップ体 |
| ・ 平成丸ゴシック体 TM W4 | ・ 創英丸ポップ体 |
| ・ 平成丸ゴシック体 TM W8 | ・ 江戸文字勘亭流 |
| ・ 白州行草書体 | |
| ・ 行書体 | |

※ CD-ROM にインストールされているフォントは、(株)寺岡精工が(株)リコーより使用許諾を受けているフォントです。これらのフォントは、(株)寺岡精工社製製品とともに利用する場合に限り使用することができ、他の目的で使用することはできません。また複数のコンピュータにインストールすることもできません。

※ 上記(株)寺岡精工が使用許諾しているフォント以外を、(株)寺岡精工社製製品で使用する場合には、別途そのフォントの権利者の許諾が必要になります。文字フォントの権利者から許諾を得た上でご使用ください。

第 1 部

GPサーバー

GPサーバーは、ラベルを発行するためのあらゆる情報をGPネットワークプリンタに提供します。

ここでは「GPサーバー」ソフトウェアの特徴と合わせてGPサーバーの機能について説明します。

GPサーバーソフトとGPサーバー

「GPサーバー」ソフトとは

近來のネットワーク拡大に伴い、LANの普及は目覚ましいものがある中、プリンタの接続形態も様々なものが求められるようになりました。現場の環境やパソコンの操作性の問題から、「パソコンを何台も設置できない」「簡単な操作で作業したい」等の利用者側のニーズが生じています。このような背景を踏まえてLANと直接繋ぐことができるプリンタが開発されました。この際、例えばラベル発行そのものをプリンタ主導で行うことはできますが、データ作成や管理における効率面で若干問題がありました。「GPサーバー」はこの問題を解決し、LANに繋がる複数のプリンタのリソースを一括管理する画期的なソフトウェアです。「GPサーバー」の特徴は次の通りです。

- ◆ プリンタは1台のパソコンにつき最大10台までLANで接続することが可能です。
- ◆ 各プリンタはLANの接続により他のプリンタの通信状況に関係なく同時作業を行います。
- ◆ パソコンは接続したプリンタが要求するデータを一括管理します。
- ◆ パソコンと各プリンタはアップロードやダウンロードによりデータを共有します。
- ◆ パソコンはラベル発行を行わず、プリンタがサーバーへ直接アクセスしてデータを呼出しラベルを印刷します。
- ◆ パソコンにおいてだけでなく、各プリンタ自らがデータを作成し、修正することができます。

「GPサーバー」ソフトウェアは2種類あります。それぞれ機能に若干の違いがあります。

- ◆ 標準版
 - フォーマット作成機能、データベースとバッチデータ管理機能
 - フォーマットとデータベースのダウンロード・アップロード機能
 - バッチデータのダウンロードと実績データのアップロード機能
 - カード番号管理機能、機種別データ保存機能、マルチプリンタのデータ共有機能
 - 交信ログの記録と差分ファイルのみをダウンロードする機能
 - CSVデータの自動取り込み機能、実績データの追加取り込み機能
 - データベースのデータをリアルタイムで呼び出す機能、実績データをリアルタイムでデータベースに書き込む機能

- 最大2台までプリンタを接続可能
- ◆ プロ版
 - 標準版の機能
 - 汎用データベースリンク機能、汎用データベースをリアルタイムでアクセスする機能
 - 最大10台までプリンタを接続可能

GPサーバーの機能

GPサーバーは、「GPサーバー」ソフトの中でデータ通信を担当し、データ通信の開始・停止を統括します。GPサーバーはパソコンと各GPプリンタとの間で「フォーマット」、「データベース」、「図形データ」、「スケジュール」、「短縮コード」、「履歴データ」といった6つのデータを送受信します。各データは独自のファイル形式を持ち、またそれぞれのファイルの管理は各ツールにて行います。尚、各ファイル名は全角の漢字10文字まで入力することができます。各データの管理ツールとファイル形式は具体的に次の通りです。

- フォーマット＝フォーマット作成ツール、「g s f」
- データベース＝データベース管理ツール、「g s d」
- 図形データ＝Windowsのアクセサリのペイントツール、「bmp」
- スケジュール＝スケジュール管理ツール、「g s s」
- 短縮コード＝データベース管理ツール、「g s p」
- 履歴データ＝データベース管理ツール、「g s h」

各プリンタを統括するパソコンは、GPサーバーが各GPプリンタからの要求に応じて上記データの送受信を行うことにより、接続しているGPプリンタのデータ管理を行うことができます。さらに「GPサーバー」のフォルダ構造の提供によって、機能的にデータ管理をすることができます（→P12「GPサーバー」のフォルダ構造とデータ管理について）。最大の特色は、GPサーバーが、これらデータの通信を各プリンタの通信状況に関係なく、同時期に提供することができるという点です。つまり各GPプリンタは他のプリンタの通信状況を気にすることなくデータの通信を行うことが可能です。また、GPサーバーは外部データポーリング機能を備えており、外部データを内部データベースへ自動変換することができます。詳細はP14「外部データポーリング」をご覧ください。

GPサーバーのフォルダ構造とデータ管理について

GPサーバーはパソコンへプリンタ1台につき3つのフォルダを作ることができます。逆に、各GPプリンタは本体内蔵の固定メモリカードに2つのメモリカードを加えて、合計3つのメモリカードを持ちます。パソコンのフォルダと各プリンタのメモリカードはそれぞれ1対1の関係で対応しています。よって、パソコンは一台で複数のプリンタの豊富なデータを一括して管理することができ、各プリンタは時間をかけて自身の要求するデータのフォルダを探さずに済みます。またデータを変更した場合の作業も極簡単な操作であり、パソコン側は上書き保存をし、プリンタ側は本体またはメモリカード番号を使って変更したデータをダウンロードするだけです。このとき、データのアップロードやダウンロードの際は、GPサーバーの「初期設定」で、各プリンタのIPアドレスはもちろんのこと、パソコン側のデータ保管先をあらかじめ設定しておく必要があります（→P13初期設定）。尚、ルートフォルダの保管先と名前以外、各プリンタの名前、プリンタごとのフォルダ名は自動設定され、変更することはできません。尚、COMMONフォルダ（下図参照）とは全プリンタに共通するフォルダであり、各プリンタが共有するデータを入れることができる場所です。

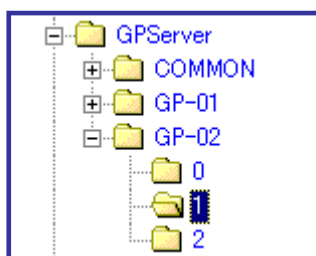
例（プリンタを2台接続し、対応するルートフォルダ名をGPServerとする）

プリンタ02がメモリカード1を使ってデータをダウンロードしたい場合。
このプリンタ02は、

■ パソコンのフォルダ「GP-02」の



■ さらにフォルダ「1」と対応しています。



プリンタにはこのフォルダ「1」の中のデータ一覧が表示され、この一覧より要求するデータをダウンロードすることになります。

各機能の利用にあたって

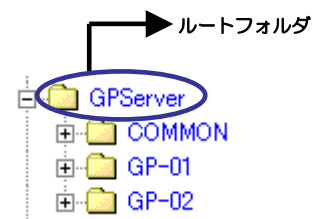
通信の前に

先の「GPサーバーの機能」で触れた通り、GPサーバーはデータ通信を統括しますので、パソコンと各プリンタとのデータ通信にあたってはまず、GPサーバーにおいて「サーバー開始」を選択する必要があります。逆に「サーバー停止」は、全プリンタのデータ通信の終了後に行います。また、各種設定メニューで設定するパラメータは通信データの動きを決めるものになるため、GPサーバーを開始する前に設定されなければなりません。特に初期設定については、この設定がないとデータ通信そのものを行うことができなくなりますので、忘れずに設定するようにして下さい。

初期設定

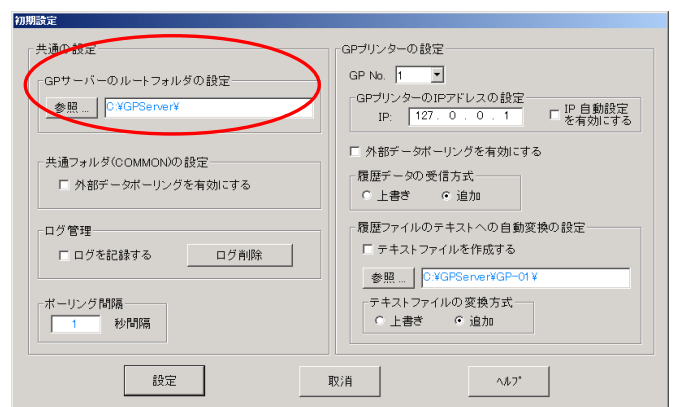
GPサーバーのルートフォルダの設定

データファイルを入れる保管場所とルートフォルダ名を設定します。ルートフォルダとは各プリンタのデータを保管する大本のフォルダのことです。初期値では図の通りCドライブの GPServer となっていますので、これを変更したい場合に再設定します。保管先は「参照」ボタンをクリックして一覧から選択することができます。



GPプリンタの設定

まず各GPプリンタのIPアドレスを確認の上入力します。GP No.はパソコンの各プリンタのフォルダと対応します(1=GP-01)。このとき通信をするか否かに関わらず、接続している全プリンタのアドレスを登録して下さい。全部のアドレスを登録しなくてもGPサーバーを開始することはできますが、各プリンタからの通信を行いたい時に、その都度通信するプリンタのIPアドレスを設定する必要が生じるからです。「外部データポーリングを有効にする」は、各GPプリンタと対応したフォルダ内に外部データがあるかどうかを定期的にチェックするか決めるもので、チェックを行う場合はオンに設定します。



共通フォルダ（COMMON）の設定

全プリンタに対応したCOMMONフォルダ内に外部データがあるかどうかを定期的にチェックするか決めるもので、チェックを行う場合はオンに設定します。

履歴データを受信する

履歴データの受信方法を選択します。既存の履歴データへ上書きしたい場合は「上書き」を、既存の履歴データを残して新しく追加したい場合は「追加」を選択します。

ログ管理

ログを記録するかどうかなを選択します。またログを削除する事も可能です。

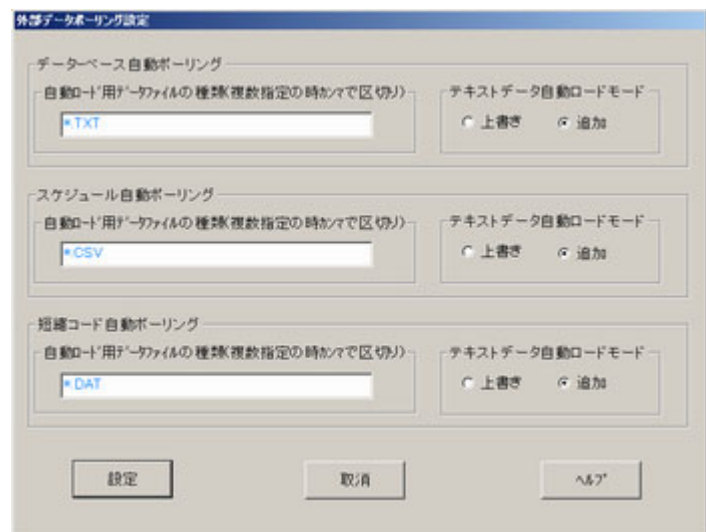
テキストデータ管理

履歴データを受信する時にテキストデータを同時に作成する事が可能です。履歴データがデータベース優先で作成されている時は、テキストデータは上書きのみで保存可能です。

外部データポーリング

外部データポーリングとは、ユーザーが外部データファイルを指定されたファイル形式にして指定した保管先に入れると、GPサーバーが自動的に「GPサーバー」のデータベース形式またはスケジュール形式または短縮コード形式へ変換するシステムです。保管先は「初期設定」の「GPサーバーのルートフォルダの設定」で指定された場所にあるCOMMONフォルダまたは各プリンタに対応するフォルダです。外部データポー

リングはGPサーバーの開始／停止に関わらず行うことができ、「外部データポーリング設定」の「自動ロード用データベースファイルの種類」で指定した拡張子を持つファイル全てが自動変換の対象となります。変換したデータは内部データベースとして利用することができます。例えばある外部データベースファイルを変換したい場合（商品.txt とする）、正常に変換できる場合は「商品.gsd」と「商品.bak」というファイル形式になり、変換できない場合は「商品.err」となります。変換できない理由の一つとして、テキスト区切り設定のミスが考えられますので、エラーになった場合はこの点をまず確認して下さい。尚、外部データポーリングを行う前には、まず「初期設定」でフォルダごとに自動ポーリングを行うかどうかを設定する必要があります。



外部データポーリング設定

自動ロード用データファイルの種類

「GPサーバー」が自動変換するテキストファイルの種類を設定します。ワイルド・カード記号「*、?」を使用することができます。いくつかのファイル種類を同時に設定することもできます。その場合、カンマ「,」で区切ります。例えば、「*.TXT,*.CSV,JW?????.*」のように、3種類のファイルを設定することができます。「テキスト区切りの設定」であらかじめ指定しておく必要があり、そのパラメータは自由に設定することができます。

テキスト区切り設定

外部データポーリングにおいて、テキストファイルを内部データベース形式に変換するために、事前にこの設定をする必要があります。尚、ここで行う設定はデータベース管理で行う「テキスト区切りの設定」と連動しています。

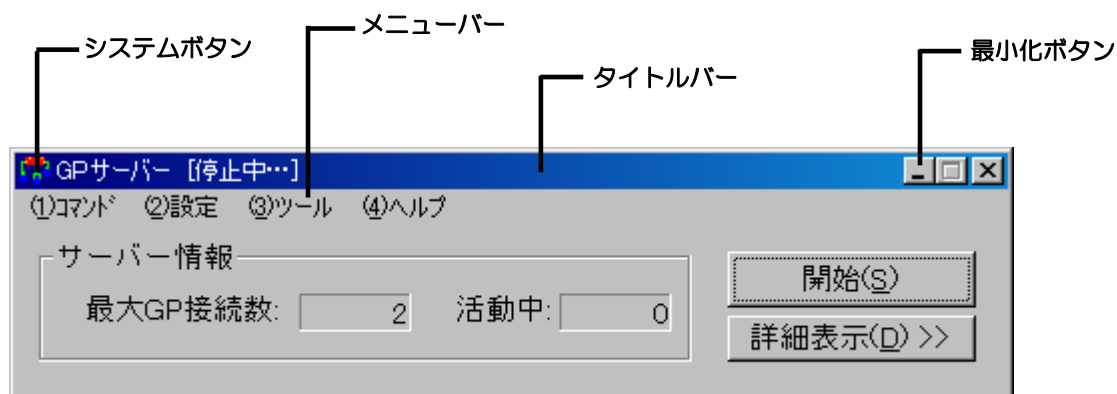
まとめ：各機能と設定の関係

以上のように、GPサーバーの機能はデータ通信と外部データポーリングの2つです。この2つの機能を開始する際に、どの設定項目が必要かを下記にまとめます。

- 各プリンタとのデータ通信開始
 - ・ 初期設定
- 外部データポーリング開始
 - ・ 初期設定の「ルートフォルダの設定」
 - ・ 初期設定の「GPプリンターの設定」・「共通フォルダの設定」内の外部データポーリング有効指定
 - ・ 外部データポーリング設定
 - ・ テキスト区切り設定

各作業を行う際には上記設定を確認し、もしパラメータの変更があるようであれば、各作業を開始する前に変更を行ってください。

メニュー・項目に関する説明



システムボタン ウィンドウに対する操作（移動・最小化・閉じる）ができます。システムボタンをWクリックするとウィンドウを閉じます。

タイトルバー タイトルバーには「GPサーバー」と表示されます。タイトルバーをドラックする事によってウィンドウを移動することができます。

メニューバー メニュータイトルをクリックすると対応するメニューが開かれます。また<Alt>キーを押しながらメニュータイトルに書いてある数字キーを押してもメニューは開かれます。各ボタンに対応する操作の詳細についてはヘルプメニューの「目次」→「メニューに関する説明」をご覧ください。

(1) コマンド

(A) サーバー開始（＝「開始(S)」ボタン）

各プリンタとの通信の対応を開始します。開始ボタン(S)と同作業です。

(B) サーバー停止（＝「停止(T)」ボタン）

各プリンタからの通信の対応を停止します。停止ボタン(T)と同作業です。

(C) 外部データポーリング開始

指定された場所に外部データがあるかどうかの定期的チェックを開始し、その都度自動変換を行います。

(D) 外部データポーリング停止

外部データのチェックと変換を停止します。

(E) 終了

GPサーバーを終了します。

(2) 設定

(A) 初期設定

内部データの保存先、各プリンタのIPアドレス等を指定します。この設定がないと各プリンタとのデータ通信を開始できない場合がありますのでご注意ください。P 13

の「初期設定」をご覧ください。

(B) 外部データポーリング設定

自動チェックと変換をする外部データベースの種類を設定します。P 15の「外部データポーリング設定」をご覧ください。

(C) テキスト区切り設定

テキストファイルを内部データベースに変換するための区切りを設定します。

(3) ツール

(A) フォーマット作成：プログラム「フォーマット作成」を起動します。

(B) データベース管理：プログラム「データベース管理」を起動します。

(C) 図形編集：Windows 標準ソフトのペイントを起動します。

(B) 外部フォント作成：プログラム「外部フォント作成」を起動します。

(B) 履歴データ管理：プログラム「履歴データ管理」を起動します。

サーバー情報

最大GP 接続数：GP プリンタの接続可能数を表示します。

活動中：接続しているGP プリンタの中で現在通信中のプリンタの数を表示します。

開始(S)／停止(T)ボタン

各プリンタからの通信の対応を開始／停止します。メニューにある「(1) マット」の(A)サーバー開始／(B) 停止と同作業です。

開始(S)：

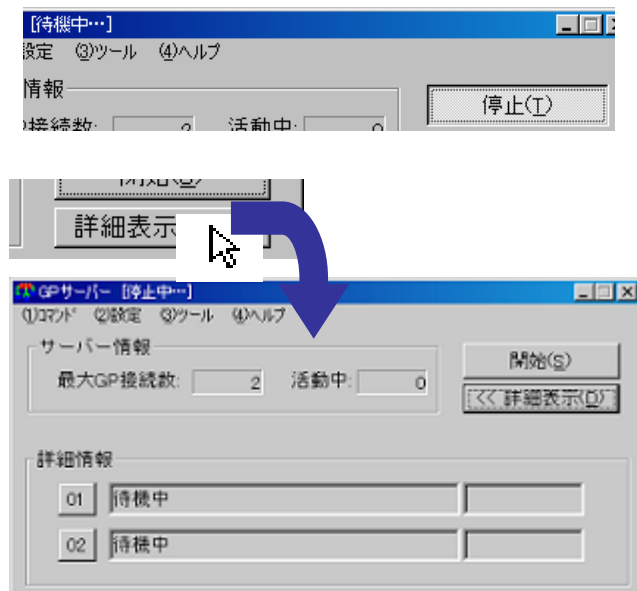
各プリンタの通信始動前にクリックします。

停止(T) ボタンに変わり、タイトルバーにGPサーバー[待機中]と表示されます。

停止(T)：

全プリンタの通信終了後にクリックします。

開始(S) ボタンに変わりタイトルバーにGPサーバー[停止中]と表示されます。(右図参照)



詳細表示(D)>>／<<詳細表示(D)

「詳細表示(D)>>」をクリックすると、接続している各GPプリンタの詳細情報画面が現れ、各プリンタの状態を詳細表示します。例えば「待機中」、「ダウンロード中」、「(ダウンロード) 成功」といった内容がそれぞれ表示されます。「<< 詳細表示(D)」を押すと元の画面に戻ります。

第 2 部

フォーマット作成

ラベルを発行する前に、まずフォーマットを作成しなければなりません。文字、罫線、バーコード、イラスト・ロゴなど、多彩なオブジェクトを自由に編集が出来ます。

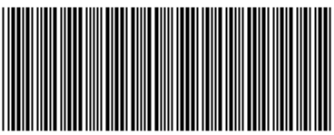
ここでは、実際にフォーマット作成して、いろいろな機能について紹介していきます。

フォーマット作成とは

フォーマットとは、ラベルに何を（内容）、どの様に（方式）印字するか、また印字内容がどの様になるか（属性）を決めるものです。

フォーマットには、ラベル発行時に必要な制御情報を全て含めるので、ラベルを発行する前にまずフォーマットを作成しなければなりません。

属性の情報をフォーマットに取り入れることで、ラベルを発行する際、自由に柔軟性があり異なった内容のラベルを発行することができます。

 JustWare	
GP-460 S ラベルプリンター460Gタイプ	
1999.03.19	0101032000
	重量 : 17 kg
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2	
ジャストウェア株式会社	

【越後名産】 笹だんご 手造り味の をどうぞ	
 0 0 1 1 2 3	

品 番	あいうえおあいうえお		
略 名	ABCDEFGHIJKLMNQRST	収 支	A
予定数	12345678	数 量	12
出庫支給日	1999年03月24日	ピッキングNO	12345678
相手先	12	親品番	

 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8	
---	--

機 能

【GP サーバー】のフォーマット作成は、ラベル発行時の汎用性や柔軟性、自動性を実現する為に、以下に示す様々な機能を提供しています。これらの機能を組み合わせる事によって、ユーザー独自のニーズを満たすラベル発行が可能です。

「入力機能」

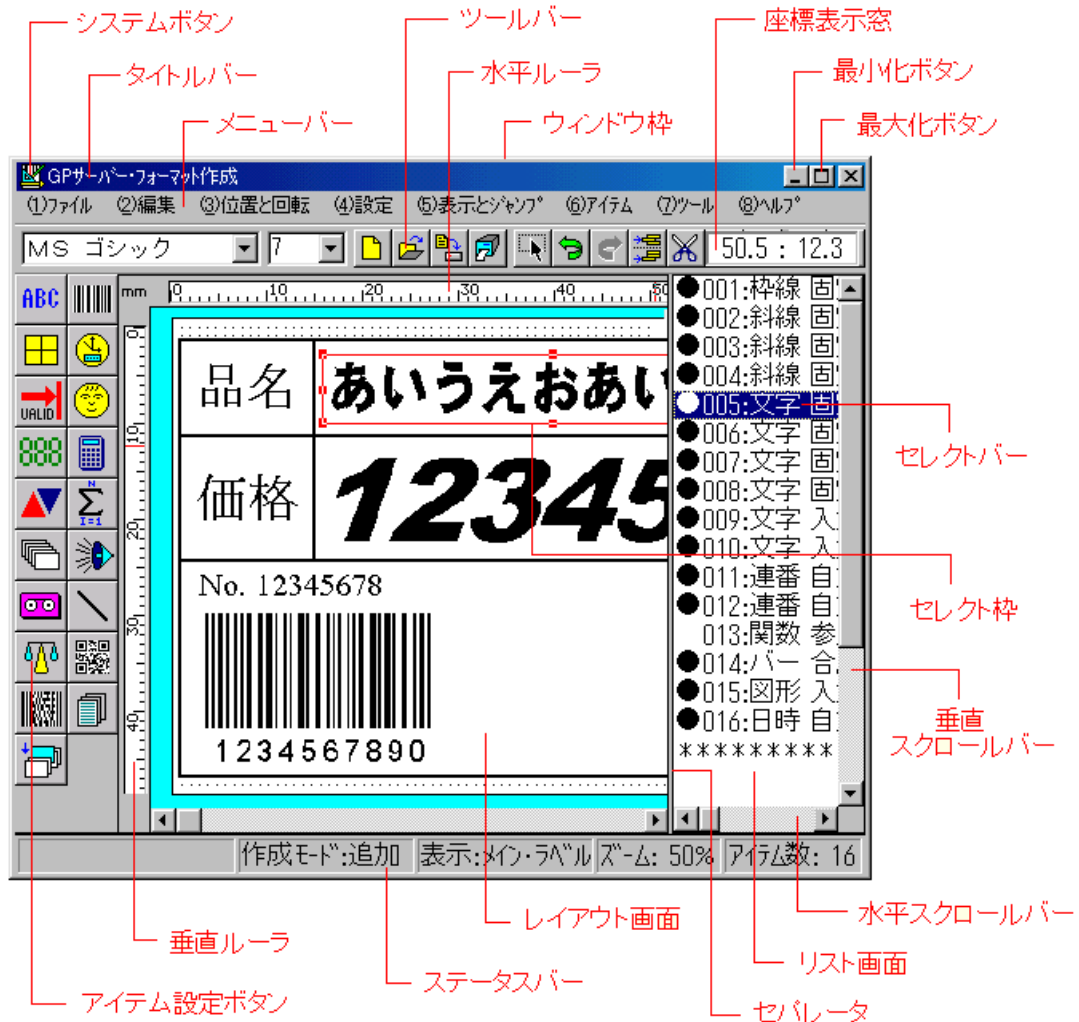
ラベル発行の時キーボードから入力する事や、データベースファイルからデータを呼び出して印字する事ができます。

第2部 フォーマット作成／画面の構成

「合成機能」	幾つかのアイテムのデータを組み合わせて印字する事ができます。
「図形機能」	事前に作成した図形や、ロゴ、特殊記号などをラベルに印字する事ができます。
「連番機能」	3種類の連番をサポートします。 ① グローバル連番……全てのフォーマットやデータベースのアイテムが、共通して使う連番。 ② フォーマット連番…各フォーマットがそれぞれ独自の連番を持ち、別のフォーマットには、影響されません。 ③ データベース連番…データベースの中にある連番。
「演算機能」	2つのアイテムのデータを演算して、演算の結果をラベルに印字する事ができます。
「集計機能」	あるアイテムのデータを集計して、集計の結果をラベルに印字する事ができます。
「日付時刻機能」	日付と時刻を自動的にラベルに印字する事ができ、印字の形式を自由に設定する事ができます。
「有効期限」	有効期限を指定すれば、期限になる日付や時刻を自動的に計算して、印字する事ができます。例：3日間と設定すれば、3日後の日付が印字されます。
「履歴記憶機能」	必要に応じて、ラベルに印字したデータの履歴を残す事ができます。
「バーコード機能」	現在よく使われているバーコードをラベルに印字する事ができます。
「QRコード機能」	QRコードをラベルに印字する事ができます。
「PDFコード機能」	PDFコードをラベルに印字する事ができます。
「ラベル挿入機能」	ラベルを連続発行している間に、別の異なるラベルを割り込ませ、発行する事ができます。
「データベース機能」	1つのフォーマットに、3つのデータベースファイルからデータを呼び出して印字する事ができます。

画面の構成

次は【図2-1】を基に、画面の構成に関する説明をしていきます。



【図2-1】

システムボタン：ウィンドウに対する操作（移動・サイズ変更・最小化・最大化・閉じる）ができます。システムボタンをWクリックするとウィンドウを閉じます。

タイトルバー：タイトルバーには「GP サーバー・フォーマット作成」と表示されます。タイトルバーをドラッグする事によって、ウィンドウを移動することができます。また、タイトルバーをWクリックすると、ウィ

ンドウは最大化し、もう一度Wクリックすると元のサイズに戻ります。

ウィンドウ枠：マウスポインタをウィンドウ枠に合わせると、双方向の矢印の形になります。その状態でドラッグする事によってウィンドウのサイズが変更できます。ウィンドウサイズは記憶されるので、次回プログラムを起動したときは、同じウィンドウサイズで表示されます。

メニューバー：メニュータイトルをクリックすると、対応するメニューが開かれます。
また、<Alt>キーを押しながらメニュータイトルに書いてある数字を押しても、メニューが開きます。
詳しい説明は[ヘルプ]メニューの[目次] → 「メニューに関する説明」をご参照下さい。

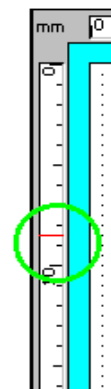
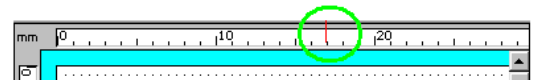
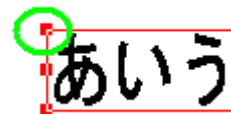
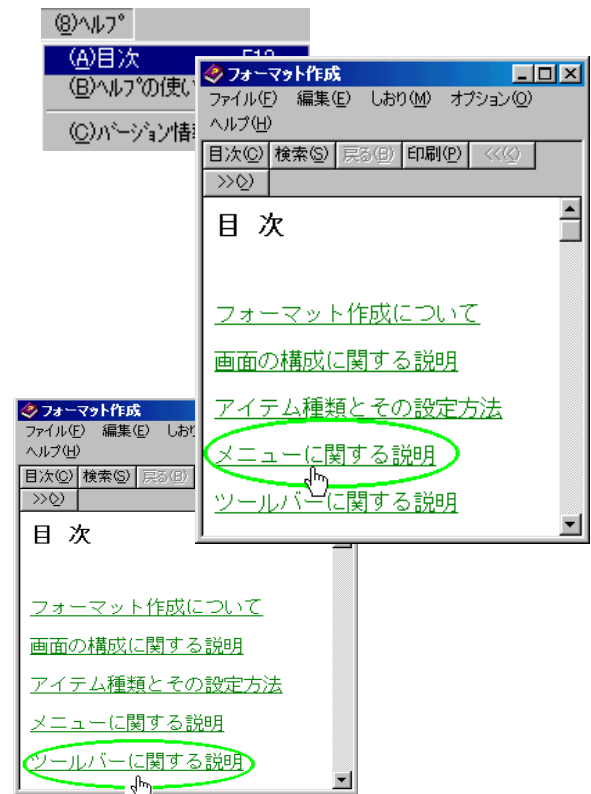
ツールバー：ツールバーボタンをクリックすると、対応する作業が始まります。
詳しい説明は[ヘルプ]メニューの[目次] → [ツールバーに関する説明]をご参照下さい。

座標表示窓：レイアウト画面にマウスポインタがある時に、座標が表示されます。
セレクト枠^{※1}をドラッグする時は、枠の左上角の座標が表示されます。単位はmm(ミリメートル)です。

水平ルーラ：各アイテムの水平方向の印字位置を決めるためのルーラです。
印字位置は、ルーラの中に赤い線が表示されます。単位はmm(ミリメートル)です。

垂直ルーラ：各アイテムの垂直方向の印字位置を決めるためのルーラです。
印字位置は、ルーラの中に赤い線が表示されます。単位はmm(ミリメートル)です。

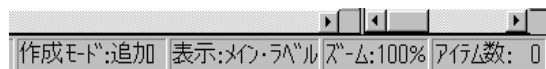
※1 レイアウト画面で選択されているアイテムを示します。



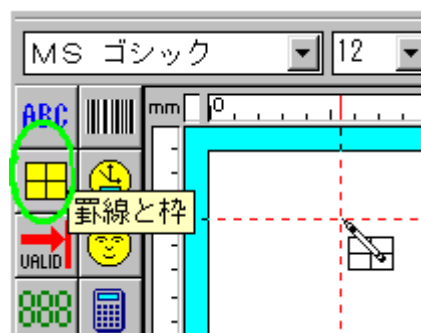
ステータスバー：プログラムの実行状況やヒント・メッセージが表示されます。

表示される実行状況は次の4つです。

1. アイテム設定モード(追加モード／挿入モード)
2. 表示ラベル(メインラベル／挿入ラベル)
3. 表示ズーム(200% / 150% / 100% / 75% / 50% / 25% / 10%)
4. 設定したアイテムの数(1～999)



アイテム設定ボタン：アイテム設定ボタンをクリックすると、マウスポインタの形が変わります。右の図は[罫線と枠]アイテムをクリックしてから、レイアウト画面に移動したところです。レイアウト画面に移動してからクリックすると設定画面が開かれ、位置が自動的に設定されます。



詳しい説明は [ヘルプ] メニューの [目次] → 「アイテム種類とその設定方法」をご参照下さい。

リスト画面：設定したアイテムの属性、印字内容・方法などの情報を表示する画面です。右の図の  がセレクトバーです。

リスト画面からアイテムを選択、削除したり、[バッファ](#)^{※2} にコピーしたりする事ができます。詳しい説明は [ヘルプ] メニューの [目次] → 「リスト画面における操作方法」をご参照下さい。

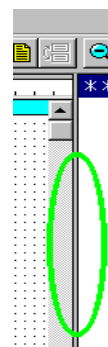


レイアウト画面：ラベルデザインを表示する画面です。デザインの確認やアイテムを設定したり、移動・コピー・削除する事もできます。詳しい説明は [ヘルプ] メニューの [目次] → [レイアウト画面における操作方法] をご参照下さい。



※2 一時的にデータを保存する記憶装置

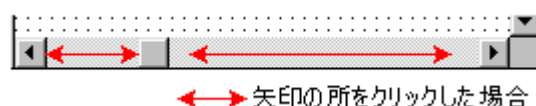
セパレータ：レイアウト画面とリスト画面の境界線です。セパレータをドラッグすると、レイアウト画面とリスト画面のウィンドウサイズの表示比率を変える事ができます。この表示比率は記憶されるので、次回プログラムを起動したときは、同じ比率で画面を表示します。



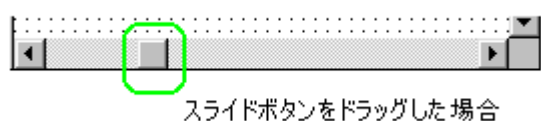
水平スクロールバー：レイアウト・リスト画面を水平方向にスクロールさせるバーです。



1. 画面が1単位シフトします。



2. 画面が10単位でシフトします。



3. スライドボタンの指定した位置にシフトします。

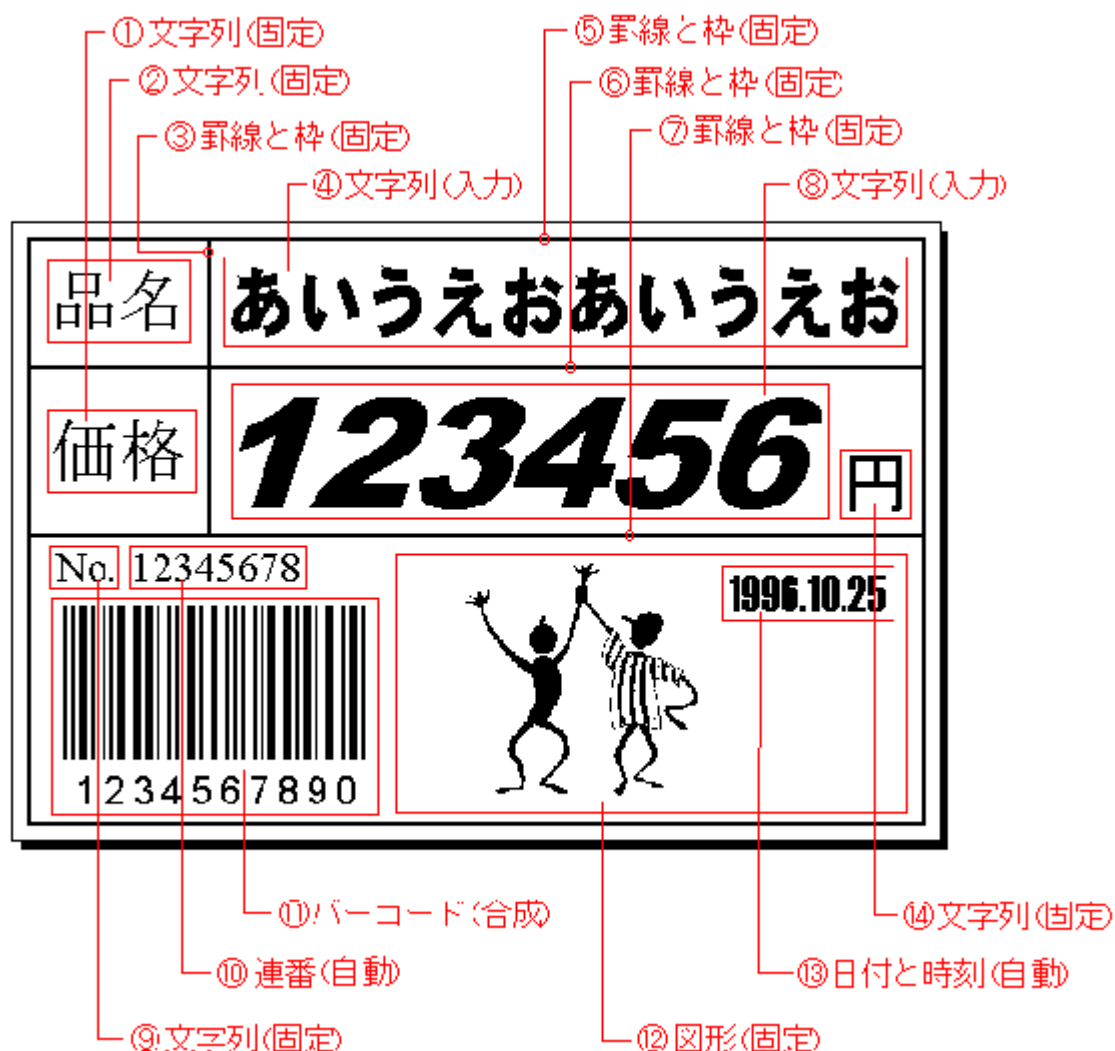
垂直スクロールバー：レイアウト・リスト画面を垂直方向にスクロールさせるバーです。水平スクロールバーの1. 2. 3. に同じ。

アイテムの種類とその設定方法

フォーマット（ラベル）を構成するとは、ラベルの中にあるそれぞれ異なる内容や方式、また属性に対し、アイテムと呼ばれる「文字列」、「罫線と枠」、「バーコード」等（下の図 ①～⑭ 参照）を使って設定する事です。

下の図は、①～⑭ のアイテムで分割し、設定されています。その横には名称と属性を示しています。

【 図2-2 】



アイテムの分割

フォーマット作成とは、先にもご説明しましたが、アイテムを設定する事です。
重要なのは、どの様にラベルのデザインを印字エリア（アイテムを表示、設定できるエリア）に分割するかと言う事です。分割の主な基準は次のようになります。

1. どのアイテムを使って表現するか、種類別に分割します。
例：「文字列」「バーコード」「図形」「日付」等
2. 同じアイテムでも属性別に分割します。
例：【図2-2】の①と④は同じ文字列ですが、「固定」と「入力」で分割します。属性については後で説明します。
3. 同じアイテム・同じ属性でも印字の内容（項目）によって分割します。
例：【図2-2】の④と⑧には、同じデータベース（「商品データベース.GSD」ファイル）から取り出して印字させる設定になっていますが、取出す項目が「品名」と「価格」では違う為、分割します。
4. 印字方式によって分割します。
例：同じ固定の文字列でも、印字位置やフォントの大きさ、印字角度等の違いによって分割します。
5. 特殊処理によって分割します。
例：あるアイテムの演算結果や、関数処理によって、別のアイテムの設定が必要な場合に分割します。

属 性

属性には「固定」「入力」「合成」「更新」の4つがあります。

- | | |
|------|--|
| 「固定」 | 文字、テキスト、タイトルなどなど、常に変わらないものに設定します。ラベル発行の際、この「固定」アイテムが最初に印刷され、次に印刷されるのが次項の「入力」アイテムとなります。 |
| 「入力」 | ラベル発行の時キーボードから入力する場合、又は登録されているデータベースファイルからデータを呼び出し入力する場合などに設定します。 |
| 「合成」 | いくつかのアイテムを組合せて印字する場合に設定します。 |
| 「更新」 | ラベル発行時に一枚ずつ書き直す必要がある場合に設定します。 |

アイテムの設定モード

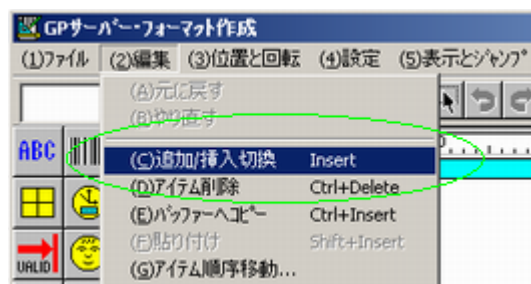
アイテムを設定する順番は、とても重要になります。これは、ラベルを発行する時にフォーマットに設定した順番で順次処理をする為です。但し、属性が異なるアイテムの処理順番が次の通りです。

「固定」→「入力」→「合成」→「自動」→「更新」

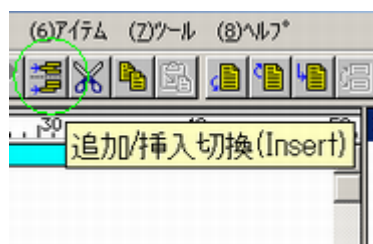
従って、固定のアイテムが入力のアイテムの後に設定しても、入力のアイテムより先に処理されるので、ご注意ください。

新しいアイテムの設定には、「追加モード」と「挿入モード」の2つの設定モードがあります。「追加モード」は、設定した新しいアイテムがアイテムリスト（リスト画面）の最後に追加されます。「挿入モード」では、選択したアイテムの前に挿入されます。

「追加モード」と「挿入モード」の切換は、メニューバーの「(2) 編集」から、「(C) 追加／挿入切換」をクリックする方法と、



ツールバーの「追加／挿入切換」ボタンをクリックする方法があります。



アイテム設定ボタン



文字列

最も多く使用するアイテムです。ラベルに印字されるテキストやタイトル、文字や文章等のほとんどを「文字列」によって設定します。



バーコード

ラベルにバーコードを印字したい場合、このアイテムを選択します。バーコードの種類は、CODE39 Interleaved 2 of 5 EAN8/JAN8 EAN13/JAN13 UPC-A UPC-E NW7/CodeBar CODE128 Matrix2of5 EAN128 詳細についてはヘルプを参照して下さい。



罫線と枠

ラベルに罫線（縦線、横線）、枠（長方形）を書きたい場合、ラベルのエリアを塗り潰す時に設定します。



日付と時刻

ラベル発行時に、自動でリアルタイムの日付と時刻を印字することができます。



有効期限

ラベル発行時に、指定した有効期限によってリアルタイムに期限切れの日付と時刻がラベルに自動印字することができます。過去（マイナス）や将来の有効期限の指定も可能です。



図形

ラベルに図面、写真、ロゴ、マーク、特殊記号などの図形を印字したい場合、このアイテムを設定します。現在「GP サーバー」は、ビットマップ形式の図形ファイル（拡張子.bmp）のみのサポートになります。他の形式による図形ファイルの場合は、ビットマップファイルに変換して下さい。又、カラーの.bmp ファイルもロードする事はできますが、ラベルは白黒表示になります。



連番

ラベルに連番やカウンター、シークエンス番号、等間隔増減データなどを自動的に印字させたい場合このアイテムを設定します。連番には3種類あり、外部グローバル連番とフォーマット連番は2つ、データベース連番は3つ提供します。

外部グローバル連番 → 全てのフォーマットやデータベースのアイテムが共通して使う連番。例えば、フォーマット①で連番 10 番までラベル発行した場合、フォーマット②の連番初期値は 11 番になります。グローバル連番の初期値や増減幅、上下限の設定は、GP プリンタ側で行えます。連番は指定された範囲内で循環します。つまり最大値に到達すると最小値に戻ります。

フォーマット連番 → 各フォーマットがそれぞれ独自の連番を持ち、別のフォーマットには影響されません。フォーマット連番の初期値や増減幅、上下限の設定は、メニューの「(4) 設定」→「(C) フォーマット連番設定…」で行えます。

データベース連番 → データベースの中にある連番。データベースの各アイテム連番が独立している為、互いに影響されずアイテムごとに連番を管理する事が容易になります。例えば、各アイテムに付き何枚のラベルを発行したか知りたい場合、各アイテムの連番を調べるといいでしょう。



演算データ

ラベル発行の処理上で2つのアイテムを演算する必要がある場合に、このアイテムを設定します。例えば、値段（重量×単価）、割引額（定価×割引率）、売り値（標準価格－割引金額）、発行枚数（総数量÷個口数）、伸び率（当日売上÷前日売上）など五則（＋－×÷余り）の演算方法を標準に提供します。



増減データ

ラベルを連続発行する時に、ラベルにインクリメント^{※3}又はデクリメント^{※4}するフィールドを設ける事が時々あります。例えば、3枚のラベルを連続発行する時、ラベルに3-1、3-2、3-3又は3/3、2/3、1/3のように「発行枚数／総発行枚数」を印字したい場合やまたそのような処理を必要としている場合に、このアイテムを設定します。

発行直前に、設定した数値を初期値と増減幅に入力又は、指定した参照先のアイテムから設定します。

増減データと連番の大きな違いは、増減データは連続発行中のみ有効で、一枚ずつの発行では増減されません。発行直前に初期値と増減幅が自動的にセットされます。

例えば、「発行枚数^①／総発行枚数^②」(1/4、2/4、3/4、4/4...)を印字する為には、まず②の分母部分になる発行枚数アイテムを先に設定します(「発行枚数」をご参照下さい)。

①の分子部分に当たる発行枚数は、初期値を「発行枚数」アイテムを参照先として指定し、増減幅は「-1」と入力します。



集計データ

ラベル発行において、あるデータの合計を計算する事ががあります。例えば、今日一日でラベルを何枚発行したか、各商品がいくつ生産したか、肉の総重量はどのくらいか、今日の売上がいくらか、などを集計する場合があります。このようにデータを集計したい場合にこのアイテムを設定します。集計値をラベルごとに印字しても、まとめて集計ラベル(「挿入ラベル」をご参照下さい。)に印字してもいいです。ラベル発行時、集計値を自由にクリアする事ができます。

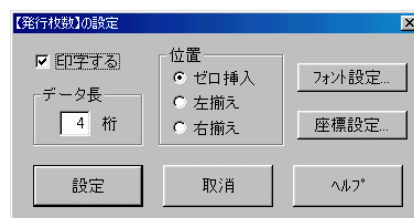
※3 指定されたデータの値を増やす事。レジスタやカウンタなどの内容を1プラスする事

※4 インクリメントの逆で指定されたデータの値を減らす事で、内容を1マイナスする事。



発行枚数

ラベル発行時に入力した発行枚数をラベルに印字したい場合に、このアイテムを設定します。ここでの注意は、単位個数が1でない場合、ラベル発行時に入力した発行枚数が総数量になる事です。



テーブル

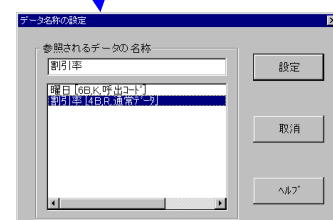
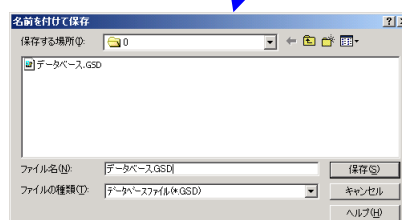
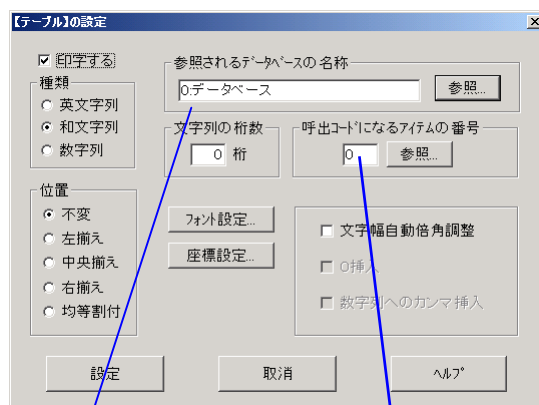
テーブルはとても柔軟性のあるアイテムです。ラベル発行時の処理過程は、指定した番号のアイテムからデータを取り、それを呼出コードとしてデータベースから対応するアイテムのデータを呼び出し、そのアイテムデータから指定したデータ名称と一致するデータを抽出してラベルに印字します。つまり参照したデータを直接ラベルに印字するのではなく、それを使ってデータベースから別のデータを引っ張ってきてラベルに印字するので、言い換えれば呼出データは「テーブル参照データ」、「間接参照データ」になります。

呼出データは主に次のような目的で利用されます。

◆ ある現象とその結果との間にあまり

規則の無い関係で結ばれていて、現象から計算により結果を求めるのが困難で、テーブル参照でしか求められない場合。例えば、国際電話料金の割引率が時間帯によって変わり、8時から18時までを0%、18時から23時まで20%、23時から翌朝8時まで40%とします。0時から23時までの割引率を事前にデータベースに登録しておけば、呼出データを用いて時間から簡単に割引率を求められます。その場合に時間だけを取るアイテム「日付と時刻」が呼出コードになります。

◆ ある現象とその結果との間に明確な規則があります。現象から計算するのが大変困難あるいは不可能で、テーブル参照によりある程度結果が求められる場合。例えば、角度に対する正弦値は、関数の中に正弦関数がまだ入れられないので計算できません。そこで、0度から360度の範囲をある間隔で切って、それぞれの角度に対応する正弦値をデータベースに登録しておけば、呼出データを用いて角度から簡単に正弦値を求められます。



- ◆ データベース入力機能の拡張として利用する場合。「GP サーバー」では、1つのフォーマットに3つのデータベースからデータを取り出し印字することができますが、更にその3つのデータベース以外のデータベースからデータを取り出したい場合、まずキーボードから入力する文字列アイテムを印字しないように設定します。次にその文字列を呼出コードとして呼出データアイテムを設定します。そうすればラベル発行時、キーボードから呼出コードを入力してデータベースからデータを取り出し印字することができます。

注意点として、呼出データに参照されるデータベースには「呼出コード」というデータが必要です。呼出コードが設定されていない場合、番号順によってアイテムデータを取り出します。



履歴データ

あるアイテムのデータの発行履歴を残したい場合、このアイテムを設定します。データ履歴を記憶することで、後で発行作業のチェック、発行データの確認、レポートの発行、データの統計や分析が行えます。1つのフォーマットに履歴データを複数設定することができ、どのデータの履歴も取ることができます。フォーマットに履歴データがあれば、ラベル発行時に履歴レコードファイル（拡張子.GPH）が自動的に生成されます。プログラム→「データベース管理」で履歴レコードファイルを開き、確認することができます。



自由斜線

ラベルに斜線を引きたい場合、このアイテムを設定します。



秤データ

寺岡製の秤を接続して、重量などのデータを取り込んで、ラベルに印字するアイテムです。一台のパソコンは同時に一台の秤しか接続することが出来ません。ただし、秤のデータはいくつでも取り込むことが出来ます。例えば、総重量、正味量、風袋量などを同時に取り込むことが出来ます。その場合に「秤データ」を何個か設定する必要があります。



QRコード

ラベルに二次元バーコード—QRコードを印字したい場合、このアイテムを設定します。QRコードに関する詳しい説明は、QRコードの規格書をご参考下さい。



PDFコード

ラベルに二次元バーコードーPDFコードを印字したい場合、このアイテムを設定します。PDFコードに関する詳しい説明はPDFコードの規格書をご参考下さい。



挿入ラベル

1つのフォーマットが1つのラベルデザインと対応するのがすでにおわかり頂いたと思います。しかし、実際に、1つのデザインのラベルを発行している間に別のデザインのラベルを割り込んで印字する場合があります。例えば、同じフォーマットで何種類の商品のラベルを発行するとき、商品を変えるたびに1枚の区切ラベルを発行する場合と、集計データがあるとき、集計が終わったら集計結果を印字する集計ラベルを発行する場合があります。このような場合に、挿入ラベル機能を利用すれば、問題を解決できます。

アイテム「挿入ラベル」はパラメータを持ちません。レイアウト画面左側の「挿入ラベル」ボタンをクリックするか、又はメニュー「アイテム」のサブメニュー「挿入ラベル」をクリックすると、リスト画面に「挿入ラベル」のアイテムが表示されます。このアイテムがラベルアイテムの区切になり、これより上のはメインラベルのアイテムで、これより下のは挿入ラベルのアイテムです。セレクトバーがメインラベルのアイテムにあるとき、レイアウト画面がメインラベルのレイアウトを表示し、セレクトバーが挿入ラベルのアイテムにあるとき、レイアウト画面が挿入ラベルのレイアウトを表示します。



挿入ラベルにアイテムを設定する方法はメインラベルと全く同じです。全てのアイテム種類が挿入ラベルに設定できます。注意点は、メインラベル発行中はメインラベルのアイテムだけ処理し、挿入ラベル発行中は挿入ラベルのアイテムをだけの処理をします。例えば、メインラベルのデータを集計して挿入ラベルに集計結果を印字させる場合、アイテム「集計データ」をメインラベルに設定し、集計データを参照する文字列アイテムを挿入ラベルに設定します。メインラベルのデータを集計するアイテムを挿入ラベルに設定すると、集計はしなくなってしまいます。

アイテム「挿入ラベル」の設定位置は自由で、削除もできます。ただし、「挿入ラベル」は1つしか設定できません。

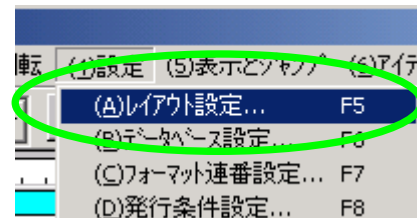
フォーマットの作成 Part1

それでは、フォーマットを作成していきます。このフォーマット例は「罫線と枠」、「自由斜線」「文字列」、「連番」、「バーコード」、「日付と時刻」、「図形」、の7つのアイテムで構成されていますが、中には同じ「文字列」でも属性別で「固定」と「入力」といった別々の設定を行う箇所もあります。それでは、まずラベルサイズから設定していきましょう。

ラベルサイズの設定

1

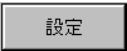
メニューバーの「(4)設定」をクリックし、「(A)レイアウト設定」を選択します。

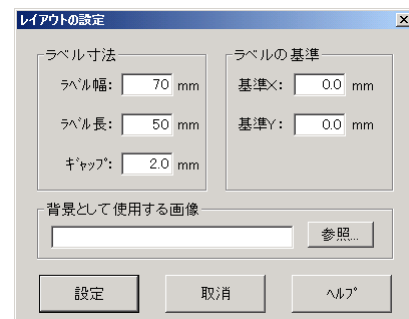


2

使用するラベルの横幅と長さをここで設定します。入力する数値は、半角文字になります。

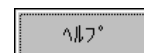
- ・ラベル幅 —— 「70」
- ・ラベル長 —— 「50」

数値の入力が終了したら、 をクリックします。



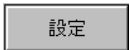
※「背景として使用する画像」は、ラベルサイズと同じサイズの画像を設定します。プリンタ側でレイアウト画面に背景として表示され、印字はされません。事前印字のあるラベルを使用する場合に、アイテムをレイアウトし易くするため設定します。

※ 詳しい設定項目については



をご参照下さい

3

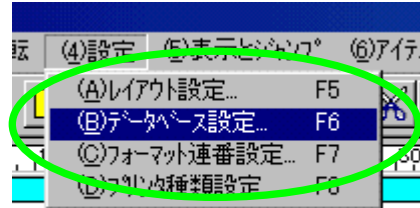
他の設定は、右の図と同じ設定にして、 ボタンをクリックします。

データベースの設定

1つのフォーマットに、3つのデータベースファイルを呼び出す事ができます。1つのデータベースファイル（「商品 DB.gsd」）が設定されています。それでは、設定していきます。※ データベースの設定は後からでもできます。

1

メニューバーの「(4)設定」をクリックし、
「(B)データベース設定」を選択します。

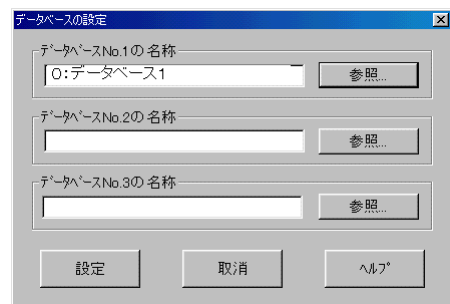


2

1つのフォーマットに、3つのデータベースを参照することができます。
ここで、データベースのファイル名を設定します。

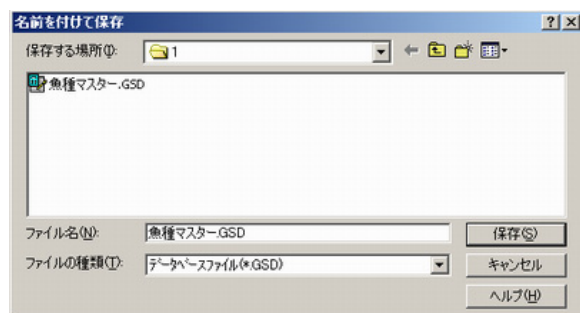
ー 直接入力する場合 ー

ファイルの名前はフォルダ番号も含めて全て。



例えば：

「O:データベース1」になります。

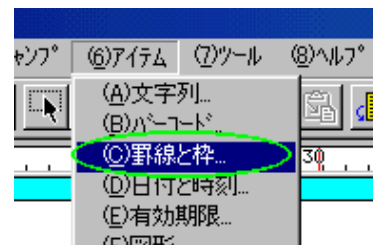


罫線・枠の設定

1

3行×2列の表を設定します。

アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(6) アイテム」を選択し、「(C) 罫線と枠...」をクリックします。

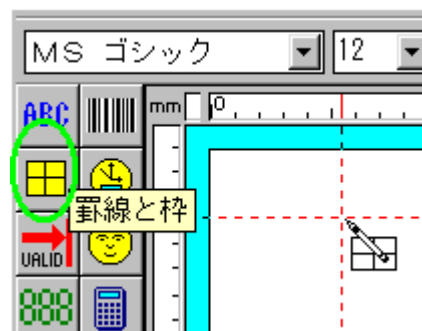


2

レイアウト画面に移動すると右の図のようにマウスポインタの形が変わります。

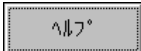
このポインタの状態から、ドラッグして枠のサイズを設定します。

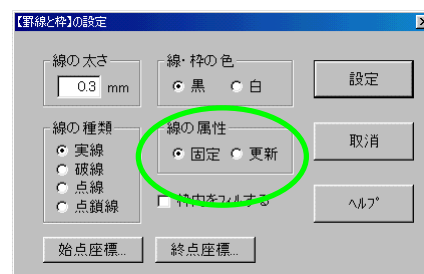
「罫線と枠」の設定画面が表示されます。



3

ここで注意したいのが「線の属性」です。GPサーバーでは固定アイテムを優先に印字するので、他の入力アイテムによって線が潰れてしまうというミス为了避免のために「更新」を設定する必要があります。

※ 詳しい設定項目については  をご参照下さい。

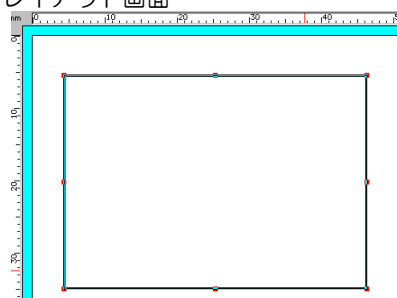


4

リスト画面・レイアウト画面は右の図のようになり、リスト画面の「●001:枠線 固定 (4.4,5.5)-(46.3,35.0)」が選択されているので、レイアウト画面の枠も選択されています(水色)。

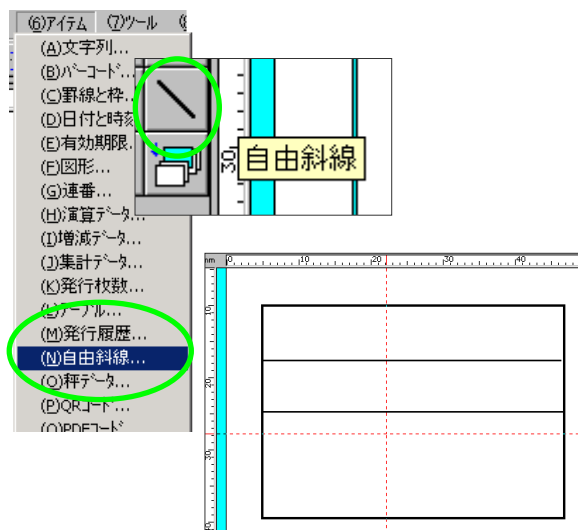
リスト画面
●001:枠線 固定 (4.4,5.5)-(46.3,35.0)

レイアウト画面



5

次に「(G) アイテム」を選択し、「(N) 自由斜線」をクリックします。または、アイテム設定ボタン「自由斜線」をクリックして下さい。カーソルの形が変わったら先程作った枠の内側をそのままドラッグして縦に1本、横に2本、罫線をひきます。この時「【斜線の設定】ダイアログ」が表示されますので、枠線と同様に、他の入力アイテムによって斜線が潰れるというミスを避ける場合は【線の属性】を「更新」に設定して下さい。

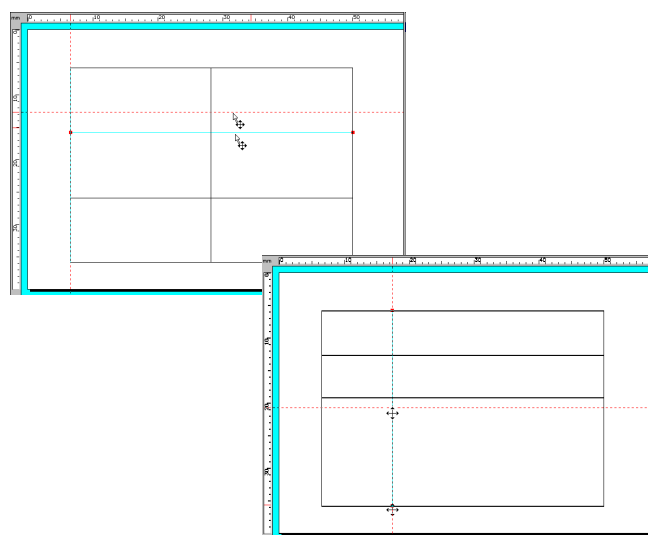


6

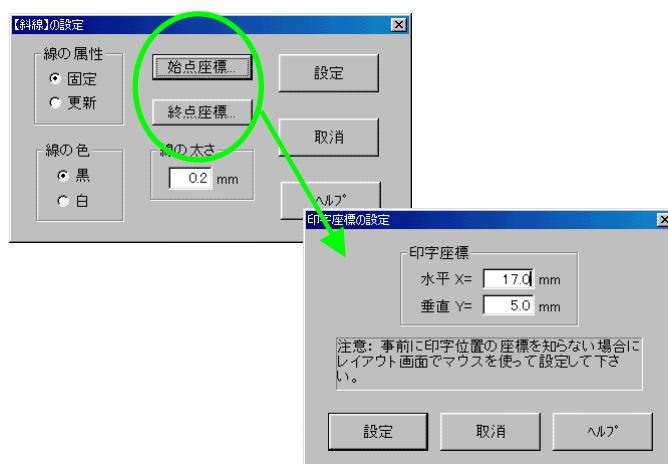
1本ずつ罫線を選択し、ドラッグ操作で長さと位置を合わせていきます。

右の図は選択された状態（水色）で罫線を移動していますが、選択されていない状態（黒実線）でも移動できます。

長さを変更する場合は、罫線を選択（水色）し、マウスポインタの形が、 この形になった事を確認してから変更を行ってください。マウスポインタが  や  形の場合は、罫線が移動します。



また、事前に印字位置の座標がわかっている場合は、罫線を設定した直後に表示される【斜線】の設定ダイアログの中にあるパラメータ「始点座標」「終点座標」で罫線の位置を設定することができます。



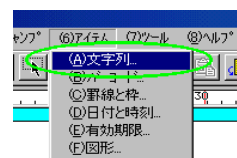
文字列の設定

ラベルに印字されるテキストやタイトル、文字や文章などほとんどは、「文字列」によって設定します。【図2-1】(P26)の①「価格」②「品名」⑨「No.」⑭「円」は常に変わらない文字列なので、**固定**に設定します。

—— 文字列が固定の場合 ——

1

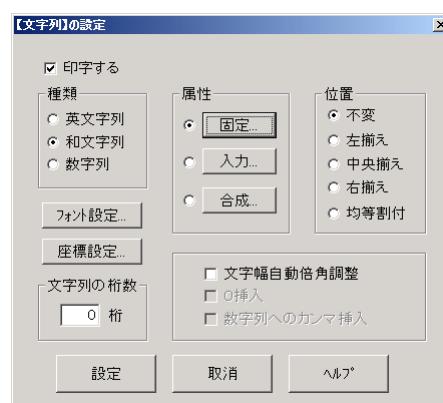
アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(6) アイテム」を選択し、「(A) 文字列...」をクリックします。



2

レイアウト画面に移動すると右の図のようにマウスポインタの形が変わります。

文字列を挿入したい所でクリックすると「文字列」の設定画面が表示されます。



3

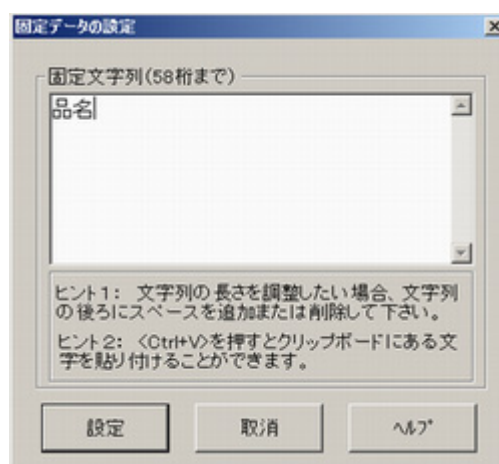
「属性」の **固定...** をクリックすると右下の図「固定データの設定」画面が表示されます。

4

固定文字列に「品名」と入力します。

ここでは、少し見やすくするために、「品名」の間に半角スペースを挿入しています。

入力が終了したら、**設定** ボタンをクリックし、「文字列の設定」画面に戻ります。



5

フォントの変更は **フォント設定...** ボタンをクリックするとスタイル（太字、縦書）やサイズの変更ができます。

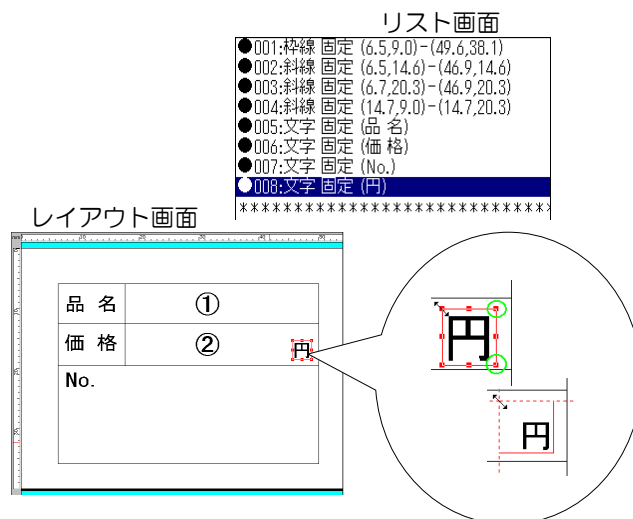
他の設定は、右上の図と同じにして、**設定** ボタンをクリックします。

※ 詳しい設定項目については **ヘルプ*** をご参照下さい。

6

同じ手順で（1～5）「価格」「円」「No.」を設定します。右図のようになります。

フォントのサイズ変更は、セレクト枠（赤い線で囲まれている状態）のハンドルからでも縮小・拡大する事ができます。

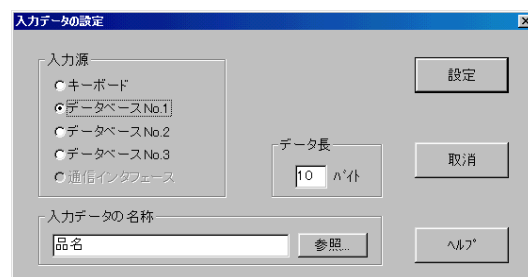


—— 入力文字列の場合 ——

右上図の ① ② に、既存のデータベースファイル「商品 DB.gsd」からデータを取り出し、印字するように設定します。

7

入力文字列「品名」を設定します。（右上図①）
1、2 と同じ手順で、「文字列の設定」画面が表示されます。「属性」の **入力...** をクリックすると右図「入力データの設定」画面が表示されます。[入力源](#)^{*3}は「データベース No.1」を選択します。



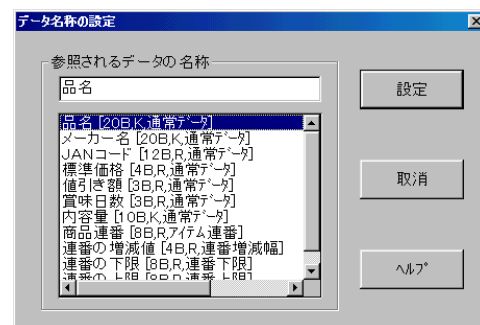
*3 入力する元を、キーボードから入力するか、どのデータベース（「データベースの設定」の所で設定したファイルを示します。）から持ってくるかを選択します。

8

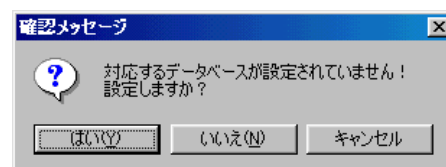
「入力データの名称」は必ず、データベースと同じものを入力して下さい。

例えば、データベースで「商品名」と登録している場合、「品名」ではなく、同じ「商品名」と入力して下さい。

データの名称が不安な場合は **参照...** ボタンをクリックすると「データ名称の設定」画面が表示されるので、一覧から選択して下さい。
(右図)



※「データベースの設定」の所で、データベースファイルを設定していない場合は、右図のメッセージが表示されますので、「はい」をクリックして下さい。設定方法は「データベースの設定」をご参照下さい。



9

他の設定は、7の右図と同じにして、**設定** ボタンをクリックします。

※ 詳しい設定項目については **ヘルプ** をご参照下さい。

10

同じ手順で(7~9)「価格」を設定します。
右図のようになります。

リスト画面

- 001:枠線 固定 (6.5,9.0)-(46.9,35.8)
- 002:斜線 固定 (6.5,14.6)-(46.9,14.6)
- 003:斜線 固定 (6.7,20.3)-(46.9,20.3)
- 004:斜線 固定 (17.8,9.0)-(17.8,20.3)
- 005:文字 固定 (品 名)
- 006:文字 固定 (価 格)
- 007:文字 固定 (No.)
- 008:文字 固定 (円)
- 009:文字 入力 (DB1, 品名)
- 010:文字 入力 (DB1, 標準価格)

レイアウト画面

品 名	あいうえお
価 格	1 2 3 4 円

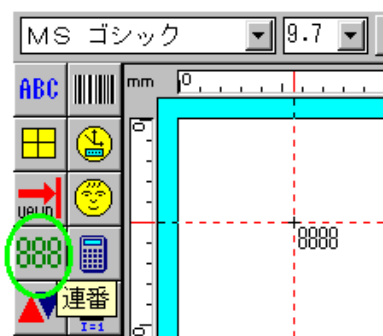
連番の設定

ラベルに連番や、カウンター、シークエンス番号など、自動的に印字したい場合にこのアイテムを設定します。「機能」(「連番機能」)のページでもご説明しましたが、連番は3種類あり、グローバル連番とフォーマット連番は2つ、データベース連番は3つ設定できます。

【図2-1】(P26)の⑩連番は「フォーマット連番」が設定されていますが、ここでもう1つデータベース連番を追加設定していきます。

1

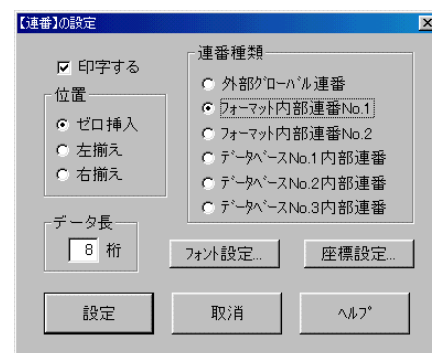
アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(G)アイテム」→「(G)連番…」をクリックします。右の図のようにレイアウト画面に移動するとマウスポインタの形が変わります。連番を挿入したい所でクリックすると「連番」の設定画面が表示されます。



2

1つ目は「フォーマット内部連番 No.1」を設定します。このフォーマットに対してだけの連番を表示させたい場合に選択します。

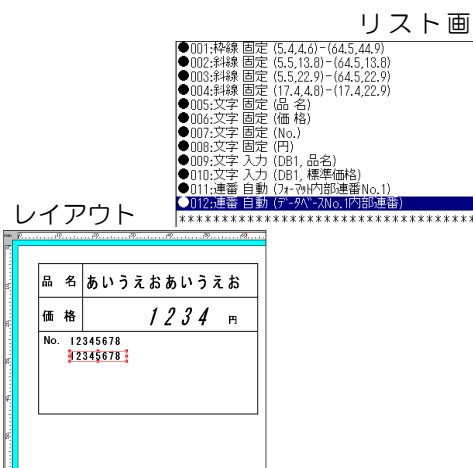
2つ目は「データベース No.1 内部連番」を設定します。データベースファイル(「商品 DB.GSD」)に商品連番が登録されています。)から連番を取り出し印字させたい場合に選択します。連番種類を選択したら、**設定** ボタンをクリックします。(連番種類は複数選択できないため、1つずつ設定してください。)



3

右図のようになります。

※ 詳しい設定項目については **ヘルプ** をご参照下さい。



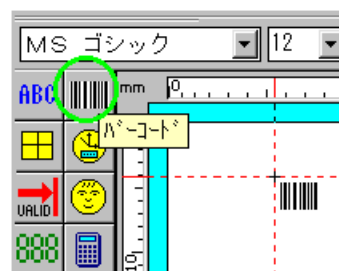
バーコードの設定

「GPサーバー」では、現在よく使われている3種類のバーコードを、ラベルに印字することができます。各バーコードの詳細説明は、ヘルプをご参照下さい。

⑪ バーコードは「合成」の設定になっています。の「機能」のページでもご説明しましたが、合成とは幾つかのアイテムを組合せたものです。ここでは、前ページで設定した、「データベース連番」と「文字列（入力）→ 価格」を組合せたバーコードを設定していきます。

1

アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(G) アイテム」→「(B) バーコード...」をクリックします。右の図のようにレイアウト画面に移動するとマウスポインタの形が変わります。バーコードを挿入したい所でクリックすると「バーコード」の設定画面が表示されます。



2

ここでは、今まで設定してきたアイテムを組合せて「合成」のバーコードを作成していきます。それでは、**合成...** ボタンをクリックして下さい。



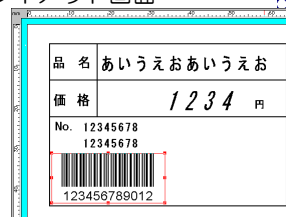
3

組合せたいアイテムを一覧の中から選択していきます。バーコードは半角英数（ローマ字・数字）しかサポートしていないので、10番と11番のアイテムの合成を設定していきます。

※ 詳しい設定項目については **ヘルプ** をご参照下さい。

レイアウト、リスト画面は、右図のようになります。

レイアウト画面



リスト画面

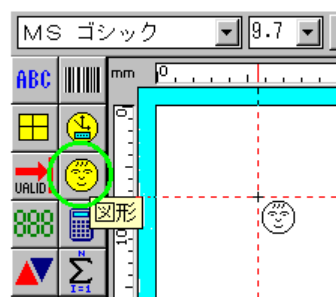
- 001:総額 固定
- 002:総額 固定
- 003:総額 固定
- 004:総額 固定
- 005:文字 固定 (品名)
- 006:文字 固定 (価格)
- 007:文字 固定 (円)
- 008:文字 固定 (No.)
- 009:文字 入力 (DB1, 品名)
- 010:文字 入力 (DB1, 標準価格)
- 011:連番 自動 (7桁以内連番No.1)
- 012:バーコード 合成 (No.010+011+005+006+007)

図形の設定

ラベルに図面や写真、ロゴ、マーク、特殊記号などの図形を印字することができます。現在「GPサーバー」は、ビットマップ形式の図形ファイル（拡張子.bmp）のみのサポートになります。他の形式による図形ファイルは、ビットマップファイルに変換して下さい。又、カラーのビットマップファイルの場合、ロードする事はできますが、ラベルには白黒表示になります。⑫ 図形は、あらかじめ用意があったものと仮定し、ここでは「固定」の設定を行います。

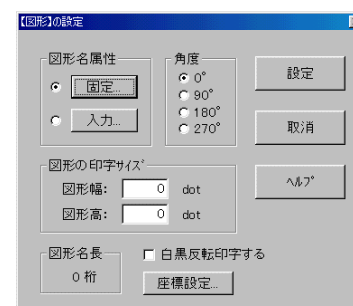
1

アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(G) アイテム」→「(F) 図形...」をクリックします。右の図のようにレイアウト画面に移動するとマウスポインタの形が変わります。図形を挿入したい所でクリックすると「図形」の設定画面が表示されます。



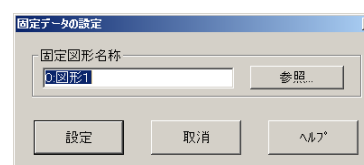
2

固定の図形を設定するので、**固定..** ボタンをクリックします。



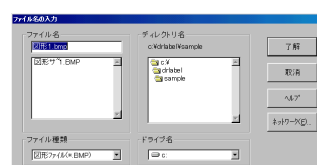
3

「固定図形名称」欄に直接入力するか、**参照...** ボタンをクリックして、ファイルを検索し、指定して下さい。図形のファイル名を入力したら **設定** ボタンをクリックし、「図形の設定」画面に戻ります。



4

他の設定は、右上の図と同じにして、**設定** ボタンをクリックします。



※ 詳しい設定項目については **ヘルプ** をご参照下さい。

●007:文字 固定 (No.)
●008:文字 固定 (円)
●009:文字 入力 (DB1, 品名)
●010:文字 入力 (DB1, 標準価格)
●011:連番 自動 (7桁-9桁-2桁, 内部連番No.1)
●012:連番 自動 (7桁-9桁-2桁, 内部連番No.1)
●013:バー 合成 (No.012+015+000+000+000)
●014:図形 固定 (c:\dlabel\sample\図形1.bmp)

レイアウト画面

リスト画面

5

レイアウト、リスト画面は、右図のようになります。



日付と時刻の設定

ラベル発行時に、リアルタイムで日付と時刻をラベルに、自動印字できます。

⑬ 日付と時刻は、西暦を印字させた形式ですが、他にも色々な形式を設定することができます。

1

アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(Ⓔ アイテム) → (Ⓓ 日付と時刻...)」をクリックします。右の図のようにレイアウト画面に移動するとマウスポインタの形が変わります。日付・時刻を挿入したい所でクリックすると「日付と時刻」の設定画面が表示されます。

2

形式設定... ボタンをクリックします。

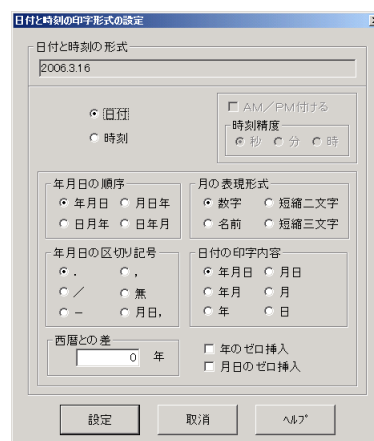
3

「日付と時刻の印字形式の設定」画面が表示されます。表示させたい形式をクリックします。形式設定が終了したら、**設定** ボタンをクリックし、「日付と時刻の設定」画面に戻ります。

4

他の設定は、右上の図と同じにして、**設定** ボタンをクリックします。

※ 詳しい設定項目については **ヘルプ** をご参照下さい。



●008:文字 固定 (円)
●009:文字 入力 (DB1:品名)
●010:文字 入力 (DB1:標準価格)
●011:連番 自動 (7a-9a内部連番No.1)
●012:連番 自動 (7a-9a内部連番No.1)
●013:バー 合成 (No.012+016+000+000)
●014:図形 固定 (c:\dlabel\sample\図形\1.bmp)
●015:日付 自動 (1999.04.1)

レイアウト画面

リスト画面



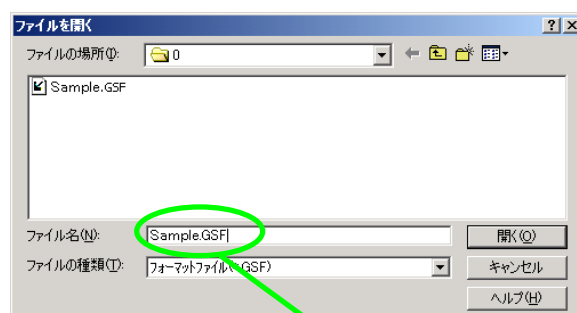
フォーマットの保存

それでは、フォーマットの設定が終了したので、保存をしていきます。



1

メニューバーの「(1)ファイル」を選択し、
「(D)名前をつけて保存...」をクリックします。



2

ここに「Sample.GSF」と入力をして、

了解

ボタンをクリックします。



フォーマットの作成 Part2

『フォーマット作成 Part1』で実際に幾つかのアイテムを設定し、そして流れをざっと説明してきましたが、大分感じがお分かり頂けたと思います。

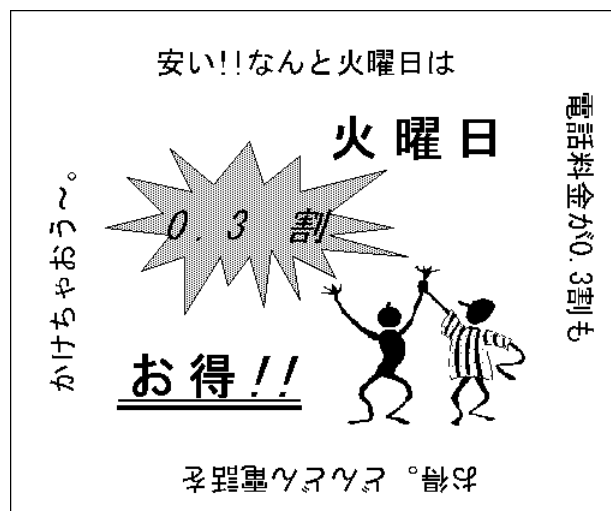
さて、Part2 では、Part1 に出てこなかったアイテムを使ったり、又 Part1 で出てきても違う属性を設定して色々なフォーマット（ラベル）の作成を、『～をしたい場合』として説明していきます。それではにある「Sample2、3、4」（下図）、他「Sample5、6、21、22」を参照していきながら設定をしていきます。



「Sample2.gpf」



「Sample4.gpf」



「Sample3.gsf」

計算結果を印字させたい場合

例えば、「Sample2.gsf」にある『定価 135 円のところ 130 円』のように「定価 — 値引き額」を計算して、値引き後の金額（計算結果）を印字させたい場合、「演算データ」アイテムを使います。それではまずアイテムの構成を見ていきましょう。



1

右図①のリスト画面を見てください。「No.006」～「No.008」までは「文字列」アイテムが設定されています。フォーマット作成 Part1 でも文字列の設定をしているのでお分かりだと思います。「No.006」は属性が「入力」で、DB1（データベース 1）にある「標準価格」からデータ呼び出して印字します。「No.007」は属性が「固定」。そのままラベルに「円のところ」と印字される部分です。「No.008」は属性が「入力」で、DB1 にある「値引き額」から呼び出します。ただ、「No.」の前に「●」が無いので印字されませんが、これは次の「No.009」の「演算データ」が参照するのに必要になります。

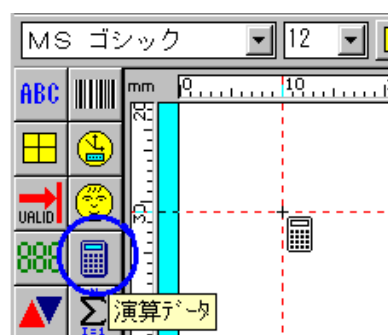
①

●006:文字 入力 (DB1, 標準価格)
●007:文字 固定 (円のところ)
●008:文字 入力 (DB1, 値引き額)
●009:演算 参照 (No.006-No.008)
●010:文字 固定 (円)

2

「演算データ」を設定する為に、アイテム設定ボタン、又はメニューバーの「(G) アイテム」→「(H) 演算データ...」をクリックします。右図のようにレイアウト画面に移動するとマウスポインタの形が変わり、もう一度クリックすると、「計算データの設定」の画面が表示されます。

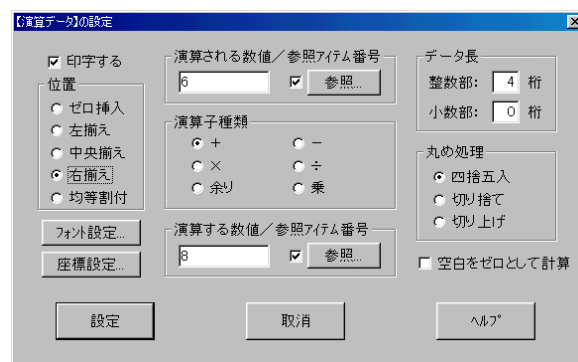
②



3

「演算される数値/参照アイテム番号」の「参照」ボタンをクリックすると、一覧（参照データの設定画面はP49にあります。）が表示されるので、「6」を選択します。「6」が入力され、「印字する」のチェックボックスが ☒ になっています。これは6番目のアイテムを参照する事を示しています。

③



演算子種類を「-」にチェックし、「演算する数値/参照アイテム番号」は上と同じように、「参照」ボタンをクリックし、一覧から「8」を選択します。

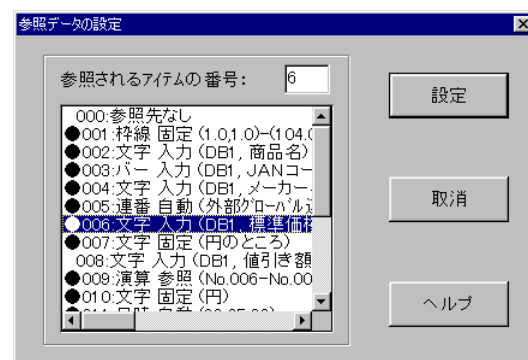
④

4

設定

ボタンをクリックします

※ 詳しい設定項目については ヘルプ をご参照下さい。



賞味期限を印字させる場合 1

あらかじめ「賞味期限」が登録してあるデータベースファイルからデータを読み出し、右図①のように『賞味日：99.05.25』と印字させたい場合、「有効期限」アイテムを使います。

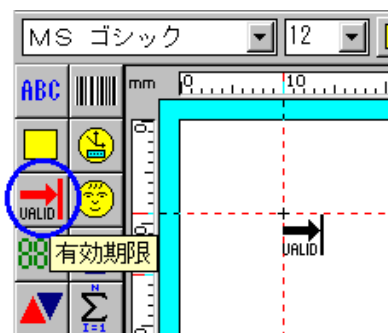
①

製造日：99.05.27
賞味日：99.09.24

1

「有効期限」を設定する為に、アイテム設定ボタン、又はメニューバーの「(G) アイテム」→「(E) 有効期限...」をクリックします。右図のようにレイアウト画面に移動するとマウスポインタの形が変わり、もう一度クリックすると、「有効期限の設定」の画面が表示されます。

②

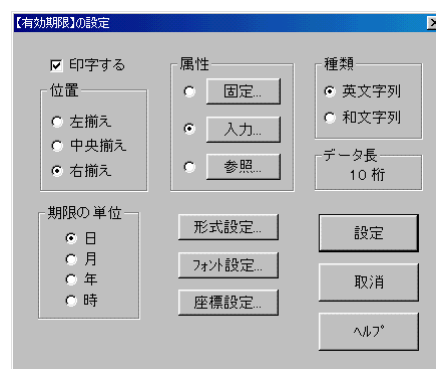


2

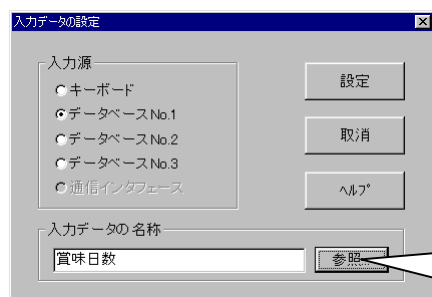
「属性」の設定は、「入力」が選択されています。(図③)

入力... ボタンをクリックすると「入力データの設定」画面が表示され、「データベース No.1」に設定されている「商品 db2.gsd」中の「賞味日数」からデータを読み出す事を示しています。(次ページ④、⑤を参照。)

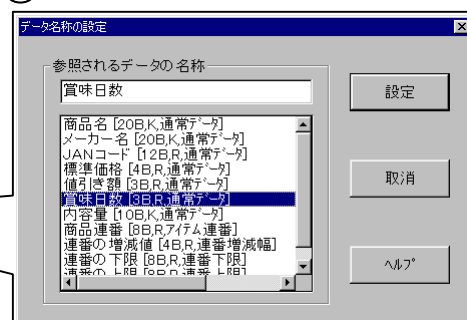
③



④



⑤



3

「期限の単位」の設定は、「商品 db2.gsd」で賞味日数を登録しているので、「日」を選択します。もしもデータベースに「年数」や「月数」単位で登録している場合は、「期限の単位」もその単位を選択して下さい。誤ってしまうと有効期限が正常に印字されません。

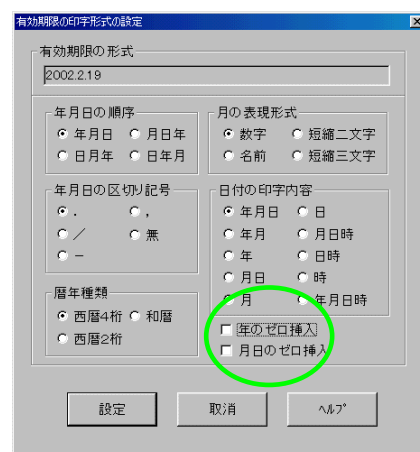


4

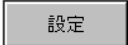
「有効期限の設定」にある「形式設定...」ボタンをクリックすると、フォーマット作成 Part1 に出てきた「日付と時刻の印字形式の設定」画面が表示されます。（「日付と時刻の設定」） Part1 と同じように形式を選択していく訳ですが、ここで補足説明をします。

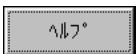
「日付と時刻の印字形式の設定」画面右下に「年のゼロ挿入」と「月日のゼロ挿入」があります。例えば、「2002 年」を西暦2桁設定で「02」と表示したい場合、この「年のゼロ挿入」を設定する必要があります。同様に、月日の1～9の期間中、例えば「1月1日」の表示を「01.01.」の様に表示したい場合は「月日のゼロ挿入」を設定する必要があります。また、月日のどちらかが2桁の際、例えば「1月15日」のような場合でも「月日のゼロ挿入」は有効です。この時、2桁の月日にゼロが挿入されることはありません。

⑥



5

他の設定は、図③と同じにして、 ボタンをクリックします。

※詳しい設定項目については  をご参照下さい。

賞味期限を印字させる場合 2

少し複雑な賞味期限の設定をしたいと思います。設定したアイテムを計算（演算）して、その結果を賞味期限として印字させます。例えば、データベースファイルに「賞味日数」が「120」と登録されているアイテムがあるとします。このアイテムをラベル発行する時に、賞味日数を「30 日」プラスした数で印字したい場合、直接キーボードより入力すると、「120+30=150 日後」の日付を印字するように設定します。

1

図①リスト画面を見ると、「No.015（有効期限）」の属性は「参照」に設定されています。参照先は「No.014 演算」になり、更に、「No.012 文字列（DB1）」と「No.13 文字列（KEY）」を参照し、計算する設定になっています。

①

012:文字 入力 (DB1, 賞味日数)
013:文字 入力 (KEY, 調整日数)
014:演算 参照 (No.012+No.013)
●015:期限 参照 (No.014) (99.06.02)

②

演算される数値の参照アイテム番号

12 

演算子種類

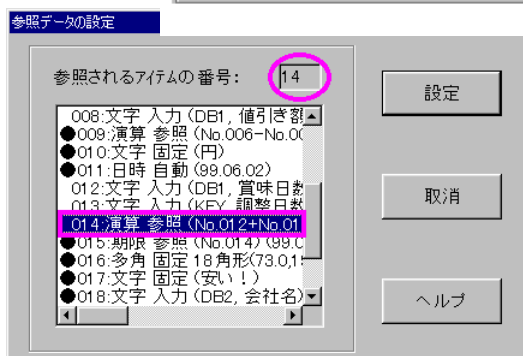
☒ + ☐ -

☐ × ☐ ÷

演算する数値の参照アイテム番号

13 

③



2

「文字列」の設定は、「No.012」はデータベースから、「No.013」はキーボードから入力する設定をします。

3

「No.014」の「演算データ」は、「演算される数値/参照アイテム番号」を「12」、「演算する数値/参照アイテム」を「13」にして、「演算子種類」は「+」を選択します。

4

属性は「参照」を選択→参照されるアイテムは「No.014 演算参照」を選択→「設定」ボタンをクリックして→「有効期限の設定」画面に戻り、設定ボタンをクリックします。

図形の設定（データベースに登録されている場合）

図形の設定は、フォーマット作成 Part1 に出てきましたが、属性を「入力」に設定し、データベースにあらかじめ登録されている「図形ファイル」を呼び出して印字させていきたいと思います。

①

●014:バー 合成 (No.012+013+000+000)
●015:図形 固定 (c:¥drlabel¥sample¥図;
●016:日時 自動 (1999.06.14)

1

フォーマット作成 Part1 で設定した図形は、「固定」に設定されていますが、属性を「入力」に変更します。右図①にあるリスト画面から「No.015 図形固定」をWクリックし、「図形の設定」画面を表示します。

②

入力データの名称

図形名

参照...

②-3

標準価格 [4B.R.通常データ]
値引き額 [3B.R.通常データ]
賞味日数 [3B.R.通常データ]
内容量 [10B.K.通常データ]
商品連番 [8B.R.アイテム連番]
連番の増減値 [4B.R.連番増減幅]
連番の下限 [8B.R.連番下限]
連番の上限 [8B.R.連番上限]
枚数 [2B.R.発行枚数]
図形名 [31B.R.図形ファイル名]

②-2

図形の設定

図形名属性
● 固定
● 入力

図形の印字
図形幅: dot
図形高: dot

図形名長: 0 桁

入力源
● キーボード
● データベース No.1
● データベース No.2
● データベース No.3
● 通信インタフェース

設定
取消
ヘルプ

②-1

2

「図形名属性」は「入力」をクリックします。「入力データの設定」画面が表示されるので、「データベース No.1」を選択（図②-1）し、「参照」ボタンをクリックします。一覧（図②-2）が表示されるので、「図形名」（属性が「図形ファイル名」のデータ項目）を選択し、設定ボタンをクリックします。入力データの名称の所に選択されたデータ項目の名称が表示されます。（図②-3）

3

リスト画面は右図③のようになります。

③

●014:バー 合成 (No.012+013+000+000+000)
●015:図形 入力 (DB1, 図形ファイル名)
●016:日時 自動 (1999.06.14)

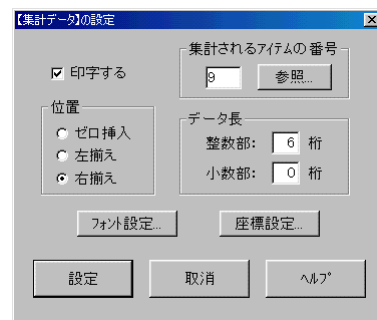
金額を集計したい場合

ラベル発行した商品の合計金額を知りたい場合、集計データを設定します。ここでは、「挿入ラベル」を設定し、メインラベルを発行後、この挿入ラベルに集計結果を印字する設定をしていきます。

1

「集計データ」は、アイテム設定ボタン、 又はメニューバーの「(G) アイテム」→「(J) 集計データ...」をクリックします。「集計データの設定」の画面が表示されます。

①



2

図①の「集計させるアイテムの番号」は、「9」が入力されています。これは「No.009 演算参照」で計算された「価格」を集計する事を示しています。「位置」や「データ長」など他の設定は図①と同じにします。

※集計結果をラベルに印字しない場合は「印字する」のチェックを外してください。

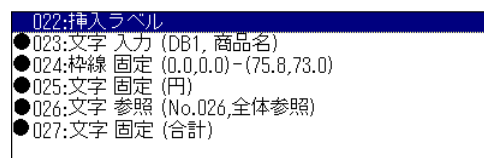
②



3

リスト画面は右図②のようになります。

③



4

続いて、集計した結果を別のラベルに印字したいので、挿入ラベルの設定をしていきます。図③のリスト画面は、挿入ラベルに設定されて  いるアイテムを示しています。挿入ラベルは、アイテム設定ボタン、又はメニューバーの「(G) アイテム」→「(P) 挿入ラベル」をクリックします。特別設定画面は表示されませんが、「挿入ラベル」を設定した後のフォーマットは、メインフォーマット（メインラベル）と別のものになります。「No.023」～「No.025」はメインフォーマットからコピーして貼り付けたものです。

「No.027 文字参照」は、「No.026」を参照し、コンマ（,）を挿入した形で集計された価格を印字する設定になります。（図④参照データの設定画面）

④



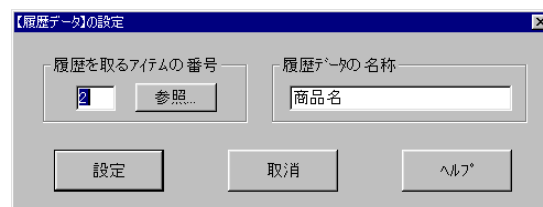
ラベル発行時の履歴を取りたい場合

例えば、どの商品を、何枚、いつ発行したか等、履歴を取りたい場合「発行履歴」アイテムを設定します。

1

「発行履歴」は、アイテム設定ボタン、 又はメニューバーの「(G) アイテム」→「(N) 発行履歴...」をクリックします。「履歴データの設定」の画面が表示されます。

①



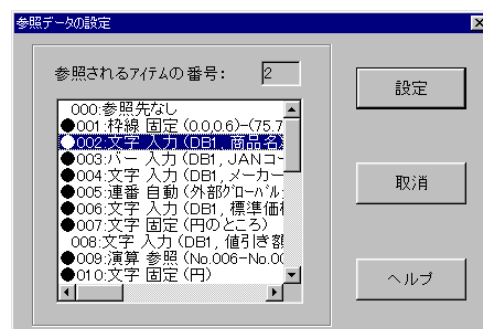
2

図①、②は「sample22.gsf」の設定とリスト画面を示しています。図①の「履歴を取るアイテムの番号」横の「参照」ボタンをクリックすると、図③の一覧が表示されます。ここでは、「商品名」の履歴を取りたいので、「No.002」を選択し、「設定」ボタンをクリックします。「履歴データ名称」の下欄には選択した「商品名」が入力されているのが分かります。（「No.020 履歴」）
同じ要領で「No.021」は「参照アイテム」を「No.009」に選択した設定をします。「履歴データ名称」に「価格」と入力します。

②

020:履歴 参照 (No.002,商品名)
021:履歴 参照 (No.009,価格)
022:挿入ラベル
●023:文字 入力 (DB1, 商品名)

③



第 3 部

データベース管理

データベースを利用する事によって、ラベル発行時に毎回同じデータを入力する必要がなくなり、作業効率がアップします。

さらに、データを管理する事もでき、特に工場や商店等の既存の管理用データベースとのやり取りや、ネットワークを通してホスト側のデータベースへの遠隔操作ができます。

それでは、データベース管理の様々な機能について紹介していきます。

データベースとは

例えば、商品ラベルを発行する為に、事前に商品に関するデータ（商品番号、品名、成分、産地、価格など）を商品ごとにまとめてファイルに登録します。このファイルをデータベースと言い、ラベルを発行する時に、そのデータベースファイルから必要なデータを呼び出して印字する事ができます。

データ項目

番号	品名	メーカー名	JANコード
00001	ミスターコーヒー	P o k k a	490247100320
00002	烏龍茶	カルピス	490134051221
00003	紅茶伝説アイスティ	カルピス	490134056521
00004	オリジナルブレンド	U C C	490120100708

アイテム

データベースを作成する時に最も注意しなくてはならない点は、必ず関連のあるデータをデータベースに設定することです。関連のあるデータとは、同じ現象から生じる結果、又は同じ対象や事柄などを説明するデータの事です。まったく関連の無いデータを1つのデータベース内に設定すると、データの管理やデータの呼び出しが正常にできない恐れがあります。

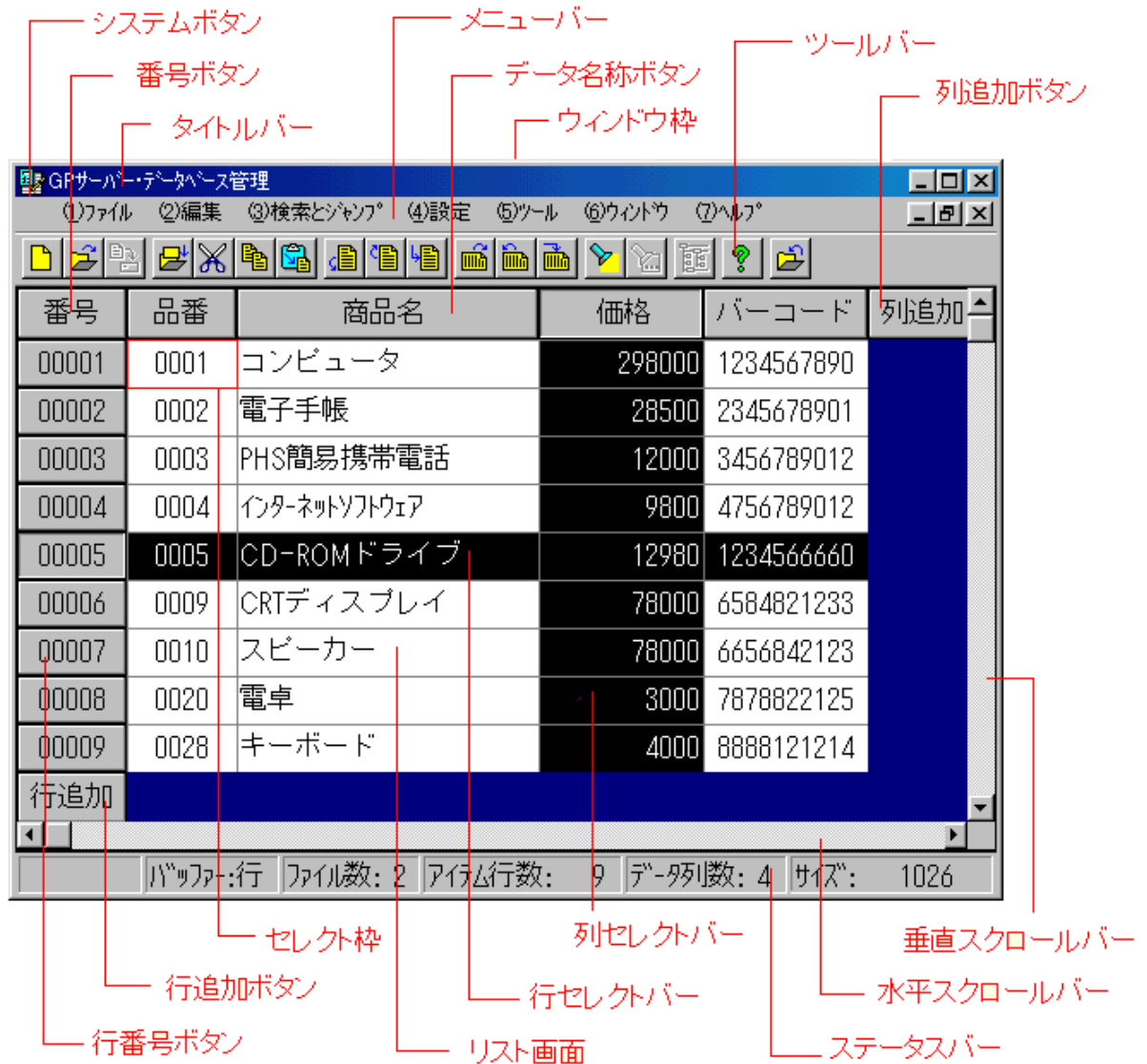
データベースに設定できるデータ項目の数は50個まで、データベースに登録できるアイテム数は18000個までになります。

又、アイテムが登録されている状態でも、データ項目の追加や挿入、削除などができます。

画面の構成

次は【図3-1】を基に、画面の構成に関する説明をしていきます。

【図3-1】



番号ボタン

このボタンをクリックすると、全てを選択する事ができます。データベースに「呼出コード*4」が設定されていない場合、この番号で呼び出されます。

*4 データベースから特定のデータを呼び出す時に必要なコード。

番号	品名	メーカー名	JANコード	標準価格
000001	ミスターコーヒー	P o k k a	490247100320	110
000002	島精茶	カルビス	490134051221	120
000003	社常伝説アイスティ	カルビス	490134056521	120
000004	オリジナルブレンド	UCC	490120100708	688
000005	ブレンドコーヒー	UCC	490120120129	110
000006	なまみそすい	米谷園	490113903050	168
000007	なまみそすい	米谷園	490113903050	168
000008	ビザチックス	カルビー	490133054045	180
000009	もちのしあめ	カルビー	490133018010	190
000010	うめしあめ	カルビー	490133010655	180
000011	ポッキーバター	グリコ	490100511316	135
000012	ローストブリッツ	グリコ	490100513156	90
000013	無塩野菜ジュース	カゴメ	490130609379	552
000014	トマトプレッツェル	グリコ	490100513144	128
000015	黒糖	かすか	490132603061	148

バッチ名: 無 ファイル数: 1 アイテム行数: 34 データ列数: 11 サイズ: 4200

データ名称ボタン

各データ項目の名称が表示されます。このボタンをクリックすると、そのデータ項目（列）が選択されます。Wクリックすると、そのデータ項目列の設定画面が表示されます。

列・行 追加ボタン

新しいデータ項目の設定画面が表示され、設定ボタンをクリックすると新しいデータ項目（列・行）が追加されます。

セレクト枠

リスト画面における選択されているデータを示します。

リスト画面

データベースのデータを表示する画面です。この画面で、行や列やアイテムのデータを選択して、削除したり、バッファにコピーしたりする事ができます。

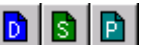
行 番号 ボタン

6桁の行番号が表示されます。このボタンをクリックするとその番号の行が選択されます。

列・行 セレクトバー

リスト画面で選択されているアイテム（列・行）を示します。

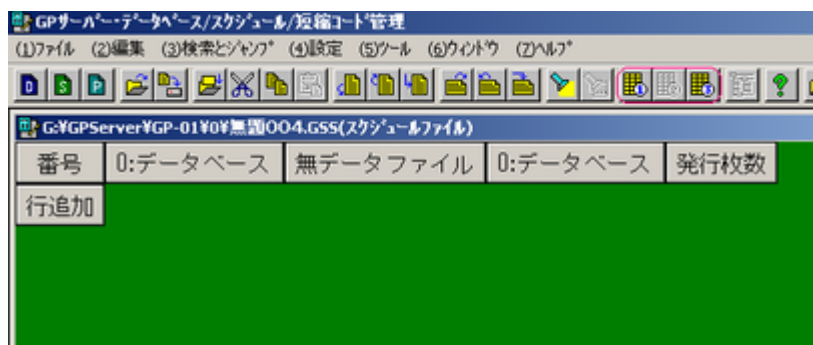
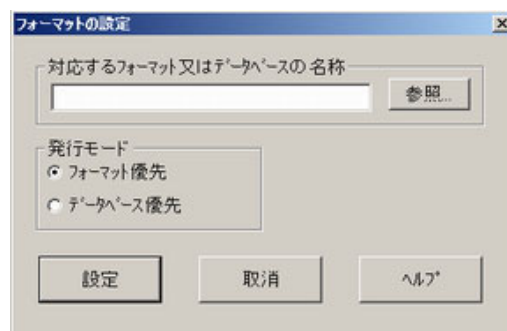
新規作成

メニュー「(1)ファイル」から「(A)データベース新規作成」「(B)スケジュール新規作成」「(C)短縮コード新規作成」を選択するかツールバーの  新規作成を選択するとファイルを新規に作成する事ができます。

「スケジュール新規作成」と「短縮コード新規作成」の場合には【フォーマットの設定】ダイアログが表示されます。

ここで、対応するファイルを設定する事により新規ファイルを作成する事ができます。

「スケジュール」と「短縮コード」で作成された場合で、データベースが設定されている時は、 をクリックする事によりデータベースから呼び出しを行う事ができます。



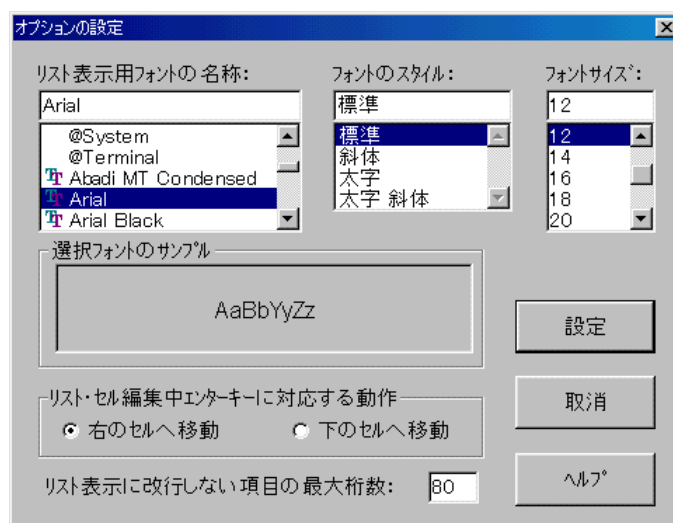
オプションの設定

メニュー「(4) 設定」から「(D) オプションの設定」を選択すると【オプションの設定】ダイアログが表示されます。ここでは、リスト入力時の書式(フォント種類、サイズ、スタイル)などを設定することができます。

リスト表示用フォントの名称

リストのフォント種類を選択します。

フォント名の先頭についている「@」マークは縦書き表示用です。



フォントのスタイル

「標準」・「斜体」・「太字」・「太字・斜体」の4種類から選択できます。

フォントサイズ

フォントサイズを選択します。フォントの種類によってはサイズが限られるものがあります。

選択フォントのサンプル

選択したフォントがサンプル表示されます。

リスト・セル編集でエンターキーに対応する動作

「右のセルへ移動」を選択すると、データベース作成時、「Enter」キーを押すとセレクト枠が常に右へ移動します。「下のセルへ移動」を選択すると、データベース作成時、「Enter」キーを押すとセレクト枠が常に下方へ移動します。入力の方法に応じて選択して下さい。

リスト表示に改行しない項目の最大桁数

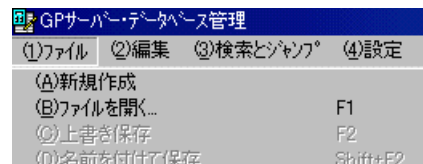
データベースにある長いデータ項目を改行しないで表示すると、どうしても一画面に入れません。ここでは、1ラインに表示できる最大の桁数を決め、その桁より長いデータ項目を自動的に改行して表示するように設定します。つまり、「5」を設定すると文字の6桁目から改行されるという事です。デフォルトは16桁になっています。

データベースの設定方法

データベースを作成する為に、まずデータベースの構造を設定する必要があります。データベース構造の設定とは、データベースに「データ項目」の数、名称、属性、バイト数を設定する事です。

—— データ項目の設定方法 ——

「データベース管理」の「(1)ファイル」から「(A)新規作成」をクリックすると、「Noname01.gsd」（新規データベース画面）が表示されます。更に、「列追加」ボタンをクリックすると、「データ項目の設定」画面が表示されます。

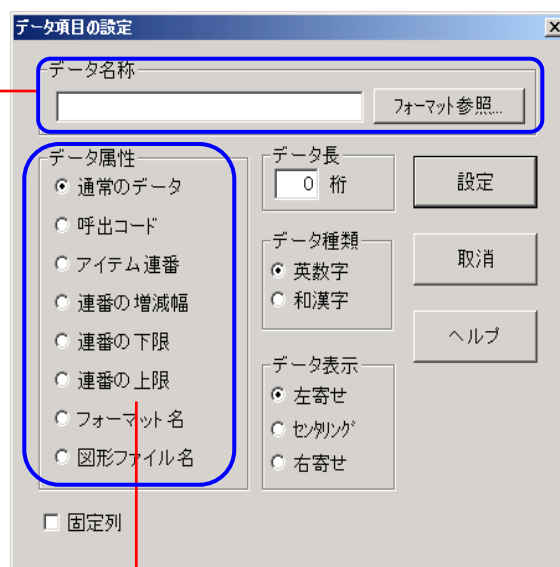


—— 各項目の説明 ——

データ名称

ラベル発行する時に、この名称でデータベースからデータを読み出すので、名称を安易に変更してしまうと、正常にラベル発行する事ができなくなります。これは、その変更したデータ名称に関連付けられているフォーマットも変更しなければならないからです。つまり、フォーマットで設定されている「データベース入力アイテム」と全く同じ名称でなければなりません。事前にどのフォーマットと関連するかが分かっている場合、

「フォーマット参照...」ボタンをクリックしてデータ名称のリストから選択したほうが間違いのないでしょう。



データ属性

「GP サーバー」のデータベース管理では、データベースに通常のデータを設定できる他、特殊なデータも設定する事ができます。「図形ファイル名」以外は、特殊データがそれぞれ 1 つしか設定できません。

「データ属性」の各項目については、次のページで説明していきます。

呼出コード

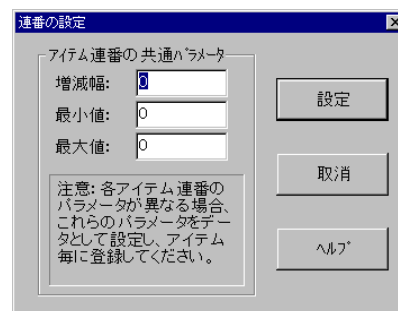
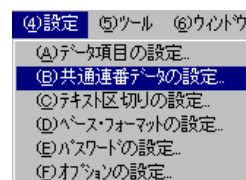
データベースからアイテムを呼び出す時、検索の対象になるデータです。

アイテム連番

それぞれのアイテムに付いている連番です。この連番を使っているラベルを発行する時は、その連番が書き換えられます。

連番の増減幅

アイテム連番の増減幅になるデータです。
全てのアイテム連番の増減幅が同じ場合は、この設定は不要になります。その場合は、メニューの「(4) 設定」から「(B) 共通連番データの設定...」で設定して下さい。



連番の下限

アイテム連番の最小値になるデータです。
全てのアイテム連番の最小値が同じ場合は、この設定は不要になります。その場合は、メニューの「(4) 設定」から「(B) 共通連番データの設定...」で設定して下さい。

連番の上限

アイテム連番の最大値になるデータです。
全てのアイテム連番の最大値が同じ場合は、この設定は不要になります。その場合は、メニューの「(4) 設定」から「(B) 共通連番データの設定...」で設定して下さい。

フォーマット名

アイテムとつながるフォーマットファイル名を登録するデータです。(右図) ラベル発行する時に、発行モードを「データベース優先」(先にデータベースからデータを呼び出して、関連するフォーマットを後から呼び出すモード)を選択した場合、必要なデータになります。この発行モードについては、GPプリンタの取扱説明書をご参照下さい。又、ファイル名には、カード番号を含めることが出来ます。例えば、「1：バーコードあり」、「0：賞味期間付き」など。

番号	枚数	フォーマット名	列追加
00001	1	f:mydocu"1\$ラベル"1\$在庫ラベル	
00002	2	f:mydocu"1\$ラベル"1\$在庫ラベル	
00003	3	f:mydocu"1\$ラベル"1\$在庫ラベル	
00004		f:mydocu"1\$ラベル"1\$在庫ラベル	
00005		f:mydocu"1\$ラベル"1\$在庫ラベル	
00006		f:mydocu"1\$ラベル"1\$在庫ラベル	
00007		f:mydocu"1\$ラベル"1\$在庫ラベル	

データ長

データの長さをバイト単位で設定します。フォーマット参照でデータ名称を設定した場合、データ長も自動的に設定されます。

データ種類

データ種類を設定します。半角文字は必ず英数字に、全角文字は和漢字に設定します。データを登録する時、データ種類によって全角入力モードと半角入力モードが自動的に切り換えられます。

リスト画面の操作方法

リスト画面は、データを表示するだけでなく、入力や変更、削除、コピーする事ができます。ここでは、リスト画面の見方、操作方法を説明します。

画面のスクロール

データ量が多く、リスト画面に全ての表示ができない場合、画面をスクロールして表示します。画面のスクロールはマウスを使う方法、キー操作、ジャンプ機能を使う方法の3つです。

マウスによる方法

水平、垂直スクロールバーのボタンをドラッグ、又はバーをクリックします。この方法では、セレクト枠の位置は変わりません。

キーによる方法

〈PageUp〉〈PageDown〉ボタンを押して、10 アイテムづつ画面を垂直にスクロールする事ができます。又〈Shift〉キーを押しながら、〈PageUp〉や〈PageDown〉ボタンを押すとデータ項目が2列づつ水平にスライドします。この方法では、セレクト枠の位置が変わります。上下左右の矢印キーからでも、セレクト枠を移動する事によって画面を水平、垂直にスクロールする事ができます。

ジャンプによる方法

メニューの「(3)検索とジャンプ」から選択する方法と、ツールバーボタンをクリックする方法があります。

The diagram illustrates the 'Jump' (ジャンプ) functionality in the software. It shows the '検索とジャンプ' (Search and Jump) menu with options for jumping to the first, last, or specified row and column. It also shows the corresponding toolbar buttons and the '指定行へのジャンプ' (Jump to Specified Row) dialog box.

メニュー (Menu):

- (A)新規検索... F7
- (B)次へ検索 F8
- (C)置換...
- (D)並び替え...
- (E)最初行へ Shift+Home
- (F)最後行へ Shift+End
- (G)指定行へ... Shift+F9
- (H)最初列へ Ctrl+Home
- (I)最後列へ Ctrl+End
- (J)指定列へ... Ctrl+F9

ツールバーボタン (Toolbar Buttons):

- 最初行へジャンプ°: 最初、最後、指定先のアイテムにジャンプします。(垂直移動)
- 最後行へジャンプ°
- 指定行へジャンプ°
- 最初列へジャンプ°
- 最後列へジャンプ°: 最初、最後、指定先のデータ項目にジャンプします。(水平移動)
- 指定列へジャンプ°

指定行へのジャンプ (Jump to Specified Row) ダイアログ:

ジャンプ先のアイテム番号: 00021

ボタン: ジャンプ°, キャンセル

指定列へのジャンプ (Jump to Specified Column) ダイアログ:

データ項目名称の一覧

01	品名 (20B,通常データ)
02	メーカー名 (20B,通常データ)
03	JANコード (12B,通常データ)
04	標準価格 (4B,通常データ)
05	値引き額 (3B,通常データ)
06	賞味日数 (3B,通常データ)
07	内容量 (10B,通常データ)
08	原価率 (8B,通常データ)
09	在庫の増減 (4B,通常データ)
10	在庫の下限 (8B,通常データ)
11	在庫の上限 (8B,通常データ)

ボタン: ジャンプ°, キャンセル

グループの選択

アイテム（行選択）

選択したいアイテム行の番号ボタンをクリックすると、そのアイテム行が選択されます。（行セレクトバー）上下の矢印キーを押すと、行セレクトバーが上下に移動し、〈PageUp〉〈PageDown〉ボタンを押すと1ページずつ移動します。

番号	品名	メーカー名
00001	ミスターコーヒー	P o k k a
00002	烏龍茶	カルビス
00003	紅茶伝説アイスティ	カルビス
00004	オリジナルブレンド	U C C
00005	ブレンドコーヒー	U C C
00006	なまみそずい	永谷園
00007	なまみそずいカップ	永谷園
00008	ピザチップス	カルビー

データ項目（列選択）

選択したいデータ項目の名称ボタンをクリックすると列が選択されます。（列セレクトバー）左右の矢印キーを押すと、列セレクトバーが左右に移動し、〈Shift〉キーを押しながら〈PageUp〉〈PageDown〉ボタンを押すと、列セレクトバーが2列ずつ移動します。

番号	標準価格	値引き額	賞味日数	内容量	商
00001	110	10	180	190g	
00002	120	20	180	350ml	
00003	120	20	180	350ml	
00004	688	8	180	1000g	
00005	110	8	180	180g	
00006	168	8	365	6袋	
00007	128	8	365	30グラム	
00008	130		60	1袋	

グループ選択する場合は、選択したいデータの先頭の番号ボタン（列の場合は、選択したいデータの先頭のデータ項目名称ボタン）をクリックし、〈Shift〉キーを押しながら最後尾の番号ボタン（列の場合は、最後尾のデータ名称ボタン）をクリックします。又、ドラッグ操作でグループ選択する事もできます。マウスの左ボタンを押しながら、選択したい範囲のデータ項目ボタン、もしくは番号ボタンをマウスでなぞって下さい。

全てのアイテムを選択する場合は、リスト画面の左上角の **番号** ボタンをクリックするか、メニュー「(2) 編集」→「(G) すべて選択」をクリックします。アイテムの選択を解除するには、行、列ボタン以外のエリアをクリックします。

アイテムとデータ項目の追加と変更

アイテムの追加

リスト画面にある **行追加** ボタンを押すか、メニュー「(2) 編集」→「(A) 行追加」をクリックすると新しいアイテムが追加されます。



データ項目の追加と変更

リスト画面にある **列追加** ボタンを押すか、メニュー「(2) 編集」→「(B) 列追加」をクリックすると【データ項目の設定】画面が表示されます。パラメータを入力し、「設定」ボタンを押すと、新しいデータ項目が設定されます。

パラメータ入力の詳細は『データベースの設定方法』のページを参照して下さい。

設定済みのデータ項目を変更したい場合は、変更したいデータ項目名称ボタンを W クリックすると【データ項目の設定】画面が表示されるので、修正または変更が終了したら、「設定」ボタンをクリックします。すると自動的に新しい設定が記憶されます。又、メニュー「(4) 設定」→「(A) データ項目の設定...」からでも同じ作業ができます。

データの入力と変更

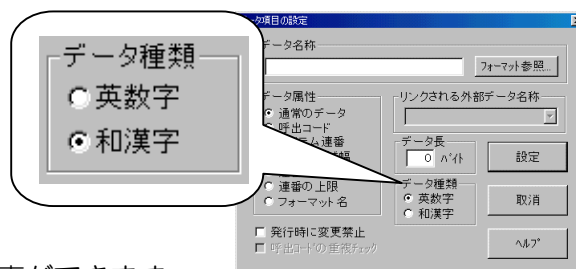
通常、セレクト枠（選択されているセル）は、赤い枠で囲まれています。データの入力や変更をする際は、枠の色が黒になります。データの入力、変更方法は 3 つあります。

1. 入力又は、変更を加えたいセルを、W クリックします。
2. セレクト枠を入力又は、変更を加えたいセルに移動し、〈Shift〉キーを押しながら〈Enter〉キーを押します。
3. セレクト枠を入力又は、変更を加えたいセルに移動し、そのままデータを入力します。
最初の 1 文字入力によって、入力ウィンドウが開かれます。

番号	品名
00001	ミスターコーヒー
00002	烏龍茶
00003	紅茶伝説アイスティ
00004	オリジナルブレンド
00005	ブレンドコーヒー

全角、半角の入力モードは、はじめに設定した「データ種類」の「英数字」又は「和漢字」によって自動切り換えします。

入力を取消したい場合は〈Esc〉キーを押して下さい。又、〈Shift〉キーを押しながら、上下左右の矢印キーを押すと、入力セルを移動させる事ができます。



ファイル名参照入力

データの属性が「フォーマット名」、の場合、セルにファイル名を直接入力してもいいですが、正確にファイル名が分からない場合に「ファイル名参照」はとても便利です。

右図のように、メニューの「(2) 編集」→「(H) ファイル名参照入力」をクリックするか、ツールバーの  ボタンをクリックすると、

番号	枚数	フォーマット名	列追加
00001	1	f:\mydocu\1\ラベル\1\出庫マ\.	
00002	2	f:\driabel\sample\sample2.fmt	
00003	3	f:\driabel\sample\sample400s.fmt	
00004		f:\driabel\sample\sample4000z.fmt	
00005		f:\driabel\sample\sample2.fmt	
00006		f:\driabel\sample\sample3.fmt	
00007		f:\mydocu\1\ラベル\1\seihin.fm	

「ファイル名入力」ダイアログボックスが表示されるので、ファイルリストからファイルを選択し、了解ボタンをクリックすると、ファイル名が自動的に登録されます。

(2) 編集	(3) 検索とジャンプ	(4) 設定	(5)
(A) 行追加	F3		
(B) 列追加	Shift+F3		
(C) 行/列挿入	Insert		
(D) 切り取り	Ctrl+Delete		
(E) パスワード入力	Ctrl+Insert		
(F) 貼り付け	Shift+Insert		
(G) すべてを選択			
(H) ファイル名参照入力	F11		

データ項目の移動

データ項目（列）を移動する場合は、

1. 移動したいデータ項目ボタンをクリックし選択します。
2. ツールバーの「切り取り」ボタンをクリックするか、メニュー「(2)編集」の「(D)切り取り」を選択します。
3. 挿入したい列の（選択した列の左側に挿入されます）データ項目ボタンをクリックし、ツールバーの「貼り付け」ボタンか、メニュー「(2)編集」の「(E)貼り付け」を選択します。

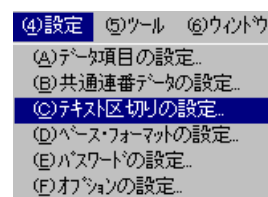
テキストファイルに書出す・読み込む

「GP サーバー」では、データベースの構造に関する情報とデータベースのデータが独自の形式でファイルに保存されるため、Access や Excel、Lotus1-2-3 等、市販のデータベース管理ソフトとの互換性を持っていません。

しかし、テキストファイルは互換性があり、各々で読み込む事ができます。この点を利用し、市販のデータベースソフトなどで作成したファイルをテキストファイル形式（.txt）に変換すれば、GP サーバーがそれを読み込んで、GP サーバーのデータベース形式(拡張子.gsd)に変換することができます。また逆に、GP サーバーで作成したデータベースファイルをテキストファイルに書出(変換)し保存すれば、そのテキストファイルを読み込む事で、市販のソフトウェアからでもファイルをロードして各々の形式に変換できるので、データの共有ができるということです。しかし、「ラベル博士」とのやり取りが異なりますので、次項『「ラベル博士」データベースへ保存』を参照して下さい。

テキスト区切りの設定

テキストファイルに書出す・読み込む場合、データ項目の間にどんな記号を入れて区切るかなど、市販のソフトによって異なるので、「GP サーバー」では区切り記号などのパラメータを自由に設定できるようになっています。メニュー「(4)設定」→「(C)テキスト区切りの設定...」で設定する事ができます。

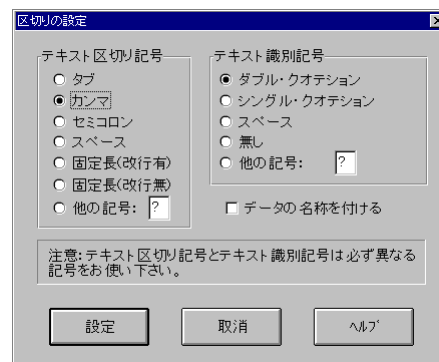


テキスト区切り記号

テキストファイルに書出す・読み込む時、データ項目とデータ項目の間にどんな記号を入れて区切るかを設定します。常用区切り記号以外の記号を使いたい場合、「他の記号」のところに入力します。区切り記号を使わずに固定長のテキストに書出し又は読み込む場合、「固定長」を選択します。ただし、この場合、書出し側又は読み込む側のソフトウェアでは、全く同じデータ長に設定しなければなりません。

テキスト識別記号

データの中に区切り記号と同じ記号が含まれている可能性がある場合、このパラメータを設定しなければなりません。これは、逆変換する時に、間違えてデータを区切ってしまふ恐れがあるからです。例えば、「"ワイン",1,900"」この様にカンマ記号(,)を区切り記号とし、価格データにカンマが入っていれば(1,900)、「テキスト識別記号」(ここではダ



ブルクォテーション ””) を付ける必要があります。常用識別記号以外の記号を使いたい場合、「他の記号」のところに入力し、使わない場合は「無し」を選択します。

注意：テキスト識別記号とテキスト区切り記号を同じ記号に設定にすると、読み込みができなくなるので、同じ記号に設定にしないように気をつけて下さい。

データの名称を付ける

テキストファイルに書出し・読む時、1行目にデータ項目の名称とバイト数を入れるかどうかを設定します。これをチェックすると、データ項目に関する一部の情報も他のソフトウェアに伝える事ができます。

テキストファイルに書出す

では、右図①にある「商品.gsd」をテキストファイルに書出しをします。

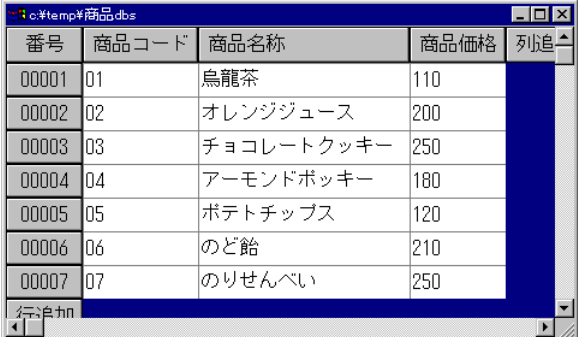
メニューの「(1)ファイル」→「(E)テキストファイルに書出し...」をクリックします。

右下図②の「テキストファイル名の入力」画面が表示されます。ファイル名を「商品.txt」と入力し、保存先のディレクトリを指定し **保存(S)** ボタンをクリックします。

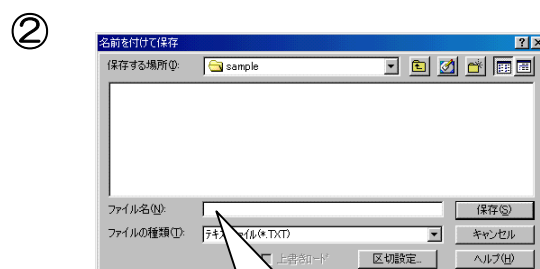
※「区切設定...」ボタンをクリックすると「区切りの設定」(前ページ)が表示され設定の確認、変更ができます。

メモ帳から「商品.txt」ファイルを開いてみると、右下図③のようにデータ項目とデータ項目の間に「,」が入っていて区切られている事が分かります。

①



番号	商品コード	商品名称	商品価格	列追加
00001	01	烏龍茶	110	
00002	02	オレンジジュース	200	
00003	03	チョコレートクッキー	250	
00004	04	アーモンドポッキー	180	
00005	05	ポテトチップス	120	
00006	06	のど飴	210	
00007	07	のりせんべい	250	



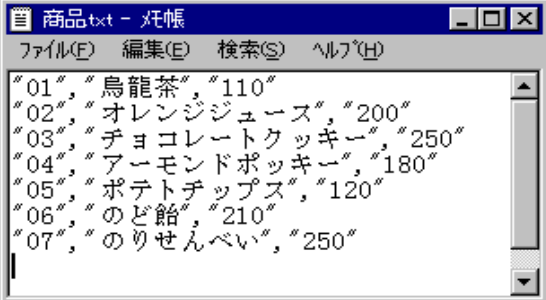
商品.txt

テキストファイルを読む

メニューの「(1)ファイル」→「(A)新規作成」からファイルを開くか、又は別の「.gsd」ファイルを開き、ウィンドウに表示させます。

メニューの「(1)ファイル」→「(F)テキストファイルを読む...」をクリックします。右上図②と同じような「テキストファイル名の入力」

③



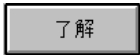
```

"01","烏龍茶","110"
"02","オレンジジュース","200"
"03","チョコレートクッキー","250"
"04","アーモンドポッキー","180"
"05","ポテトチップス","120"
"06","のど飴","210"
"07","のりせんべい","250"
  
```

第3部 データベース管理／テキストファイルに書出す・読込む

画面が表示されるので、ファイル名を入力、又は一覧から選択します。

「区切設定...」ボタンをクリックして、「商品.txt」と同じ区切り記号の設定になっているか、確認をし、

 ボタンをクリックします。

④



番号	商品コード	商品名称	商品価格	列追加
00001	01	烏龍茶	110	
00002	02	オレンジジュース	200	
00003	03	チョコレートクッキー	250	
00004	04	アーモンドボッキー	180	
00005	05	ポテトチップス	120	
00006	06	のど飴	210	
00007	07	のりせんべい	250	
00008	01	烏龍茶	110	
00009	02	オレンジジュース	200	
00010	03	チョコレートクッキー	250	
00011	04	アーモンドボッキー	180	
00012	05	ポテトチップス	120	
00013	06	のど飴	210	
00014	07	のりせんべい	250	

外部データベースのアクセス方法

「GP サーバー」では、1つのフォーマットが3つのデータベースからデータを呼び出して印字する事ができます。また、「GP サーバー」プロ版では、市販の汎用データベース（以降、外部データベースと呼ぶ）の参照も可能です（次期バージョン対応）。外部データベースを利用する際に、そのデータベースのODBCドライバをインストールし、ODBCのデータソース名を登録しなければなりません。登録方法は次のようになります。

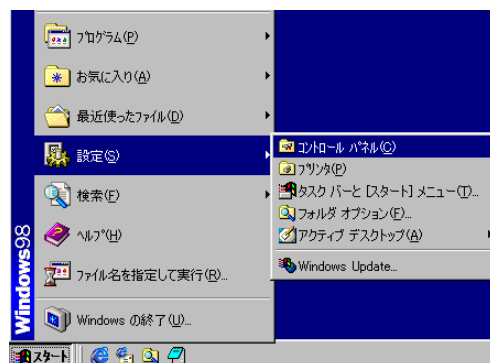
ODBC のデータソース名を登録する方法

1

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」を開き、その中の「ODBC (32 ビット)」を開きます。「ODBC データソースアドミニストレータ」ダイアログボックスが表示されます。（図②）



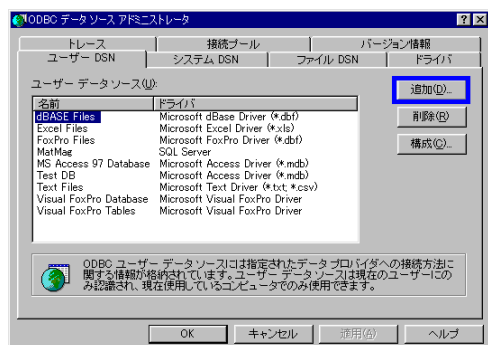
①



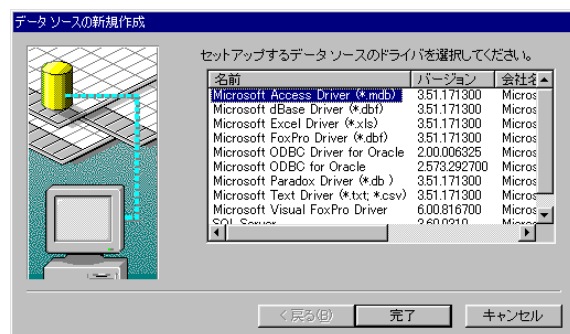
2

「ユーザーDSN」タブにある「追加」ボタンをクリックすると（図②）、「データソースの新規作成」画面が表示されます（図③）。このダイアログボックスにはドライバが一覧表示されます。ユーザーデータソース用に追加するドライバを選択し[完了]をクリックします（ここでは、Microsoft Access Driver (*.mdb) を選択しています）。

②



③



3

Microsoft Access Driver のデータソースのセットアップダイアログボックス（図④）が表示されるので、「選択」ボタンをクリックします。

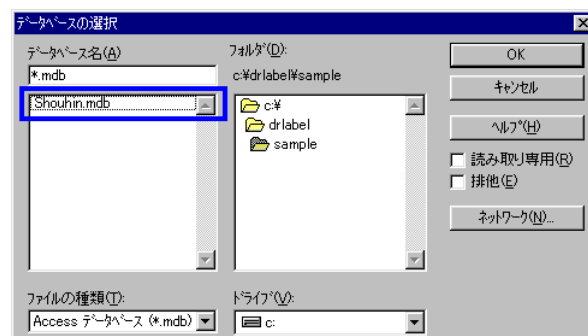
④



4

次に、「データベースの選択」のダイアログボックスが表示されるので、フォルダー→データベースファイルを選択し、「OK」ボタンをクリックします。「ODBC Microsoft Access97 セットアップ」画面に戻ります。

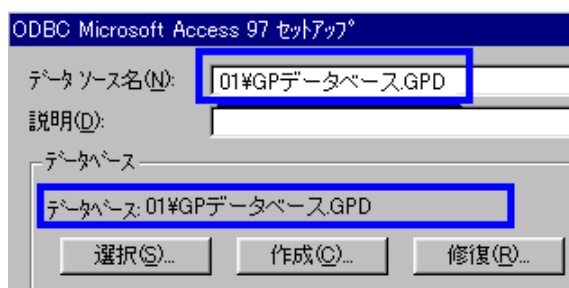
⑤



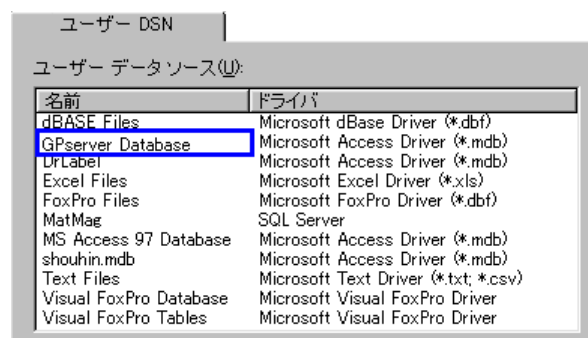
5

「データベース：」の横には指定したファイル名が表示されているのが確認できます。（図⑥）
「データソース名」のところに、名前を入力して、「OK」ボタンをクリックします。始めの「ODBC データソースアドミニストレータ」画面に戻り、「ユーザーデータソース」の中に追加されます。確認できたら、「OK」ボタンをクリックし、ダイアログボックスを閉じます。これで ODBC のデータソース名の登録は完了です。

⑥

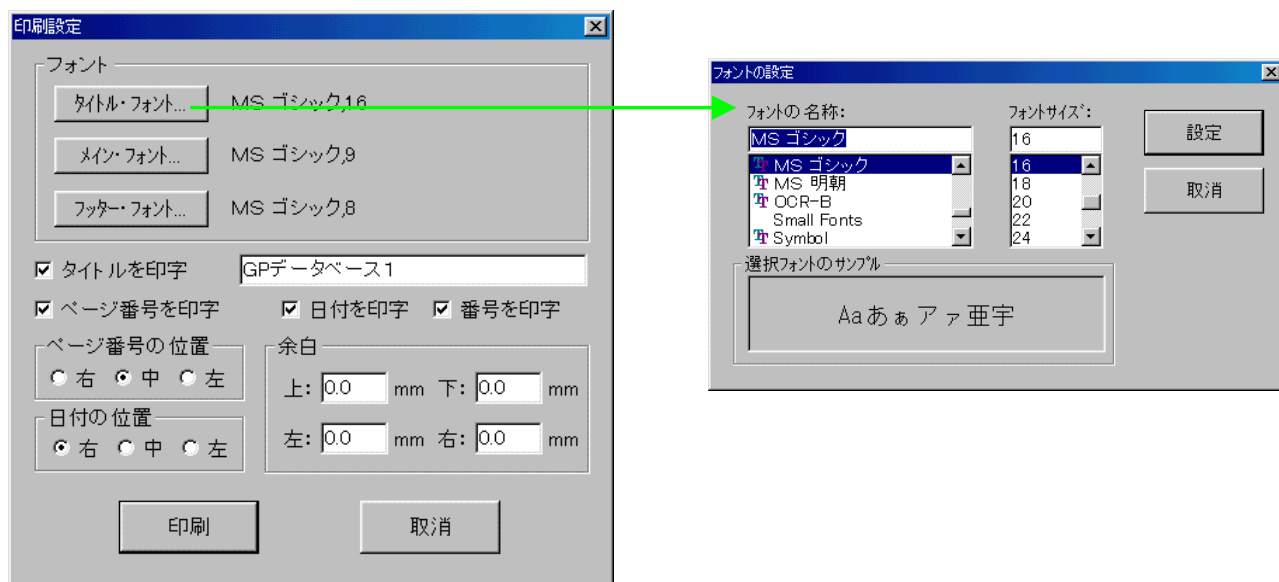


⑦



作成したデータベースファイルを印刷する

メニュー「(1)ファイル」の「(E)印刷」を選択すると【印刷設定】ダイアログが表示されます。ここでは必要に応じて、タイトル、リスト、フッターのフォントを設定したり、日付の表示、番号表示の有無、印字位置や余白の幅などを設定することが出来ます。



設定が完了し、「印刷」ボタンを押したら印刷が始まります。

スケジュールファイルについて

スケジュールファイルとは、事前に発行に必要なデータ（データベースからの入力データや、発行枚数など）をまとめて登録するためのファイルです。

次のような場合、スケジュールファイルをもっとも利用するのに適しています。

- 📖 発行するアイテム数が非常に多くて、1つずつ呼び出して発行するのが大変な場合。
- 📖 アイテム毎の発行枚数が多い、現在の発行が終らなければ、次の発行指示を出せない等プリンタの側で待機していなければならない場合
- 📖 発行データの作成と実際発行する時間や場所が離れている場合。
例えば、今日作成したデータを明日発行する場合、本部で作成したデータを支店で発行する場合など。
- 📖 発行データを作成する人とラベル発行する人が同じ人ではない場合。
- 📖 同じパターンの発行データを繰り返し発行する場合。

スケジュールファイルは一種のデータベースです。データベースファイルのデータ構造は自由に設定できますが、スケジュールファイルのデータ構造の場合は、フォーマットによって決められるので、自由に設定する事ができません。ご注意ください。

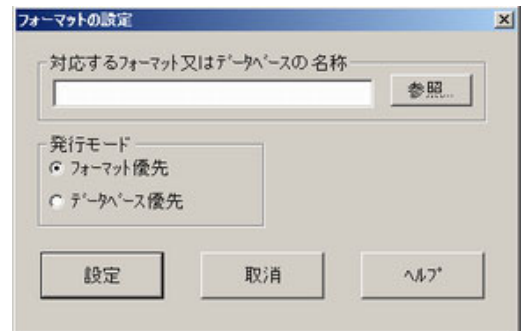
スケジュールファイルを新規作成する時、【フォーマットの設定】ダイアログで、対応するファイルを設定します。フォーマット優先発行モードでは、対応するフォーマット名称を設定すれば、そのフォーマットによってスケジュールファイルの構造が自動に作られます。データベース優先発行モードでは、対応するデータベース名称を設定すれば、そのデータベースに設定してあるベースフォーマットによってスケジュールファイルの構造が自動に作られます。

※「データベース優先」の場合に設定できるデータベースファイルはデータベース中にフォーマット列が設定してあり、第一行目にフォーマットファイル名〈すなわちベースフォーマット〉が設定してあるものに限りです。

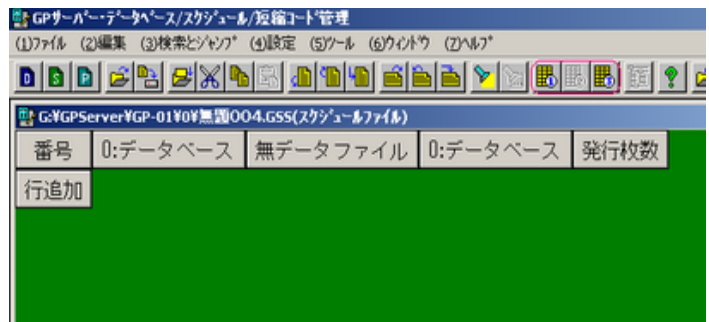
新規作成

メニュー「(1)ファイル」から「(B)スケジュール新規作成」を選択するかツールバーの  ボタンを選択するとファイルを新規に作成する事ができます。

【フォーマットの設定】ダイアログが表示されます。ここで、対応するファイルを設定する事により、そのファイルによってスケジュールファイルの構造が自動的に作られます。

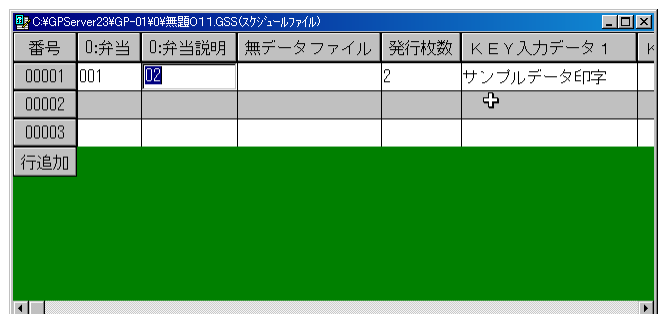


フォーマット（またはデータベース優先の場合はベースフォーマット）にデータベースが設定されている時は、スケジュールファイルの最初の3列に設定されているデータベース名称がそれぞれ表示されます。データベースが設定されていない場合は、「無データファイル」と表示されます。



データベースの項目にはそれぞれアイテムの呼出しコードを入力します。ツールバーの  をクリックする事により各データベース一覧を表示させて、そこから直接アイテムを選択して、入力を行う事ができます。

発行枚数の列以降には、その他の入力データ列が作成されます。ここは直接データを入力してください。



- ・ スケジュールファイルの拡張子は GSS となります。
- ・ 最初に設定した「対応するフォーマット又はデータベース」のファイル構造が変わった場合は、新たにスケジュールファイルを新規作成しなければなりません。

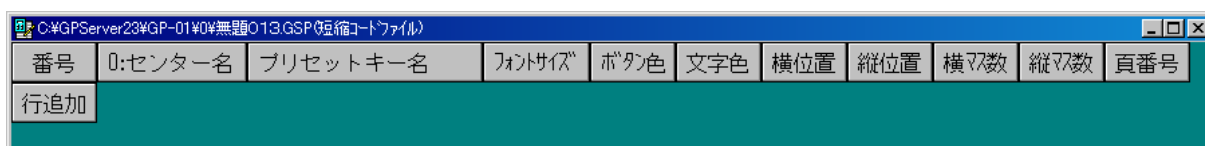
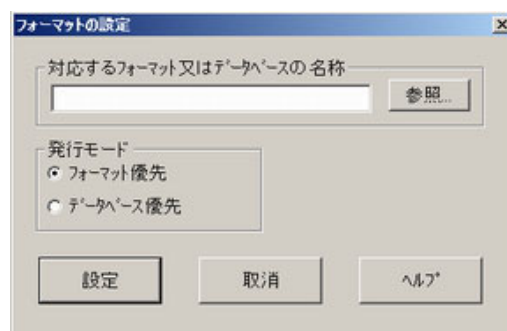
プリセット（短縮コード）について

プリセットファイル（短縮コード）とは、予めデータベースから呼出すデータの組合せを、1つのボタンに登録するためのファイルです。

新規作成

メニュー「(1) ファイル」から「(C) 短縮コード新規作成」を選択するかツールバーの  ボタンを選択するとファイルを新規に作成する事ができます。

【フォーマットの設定】ダイアログが表示されます。
ここで、対応するファイルを設定する事により、そのファイルによってプリセットファイルの構造が自動に作られます。



プリセットファイルの構造は設定したフォーマット（またはデータベース優先の場合はベースフォーマット）に対応したデータベース列と、プリセットキー名、フォントサイズ、ボタン色、文字色、横位置、縦位置、横マス数、縦マス数、頁番号の列が自動作成されます。

※ データベース以外の入力データは設定できません。

（ボタンデータ設定範囲一覧）

フォントサイズ	0～2	縦位置	0～4
ボタン色	0～15	横マス数	1～3
文字色	0～15	縦マス数	1～3
横位置	0～7	頁番号	0～7

データベースの項目にはそれぞれアイテムの呼出しコードを入力します。ツールバーの    をクリックする事により各データベース一覧を表示させて、そこから直接アイテムを選択して、入力を行う事ができます。

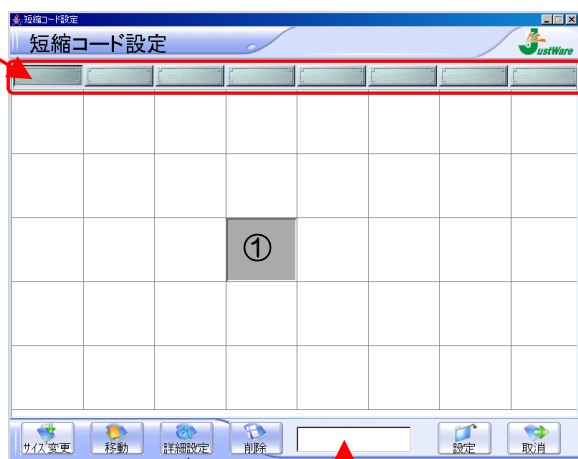
※ 直接手入力で各項目の値を入力してファイルを作成することもできますが、この場合、必ず上記（ボタンデータ設定範囲一覧）で示した設定範囲内の数値を設定しなければ、正しく短縮コードを設定することができません。

より簡単に短縮コードを設定するために、ツールバーの  ボタンを押すと、「短縮コード設定」画面が表示されます（図-ア）。（ただし、Java2 Runtime Enviroment を予めインストールしておく必要があります。インストール先フォルダ内の「J2re-1-4-1.exe」）

プリセット（短縮コード）作成

ページ切替ボタン

(図-ア)



◆ボタンの設定

②

ページ名称入力欄

①. マスを選択して「詳細設定」ボタンをクリックします。

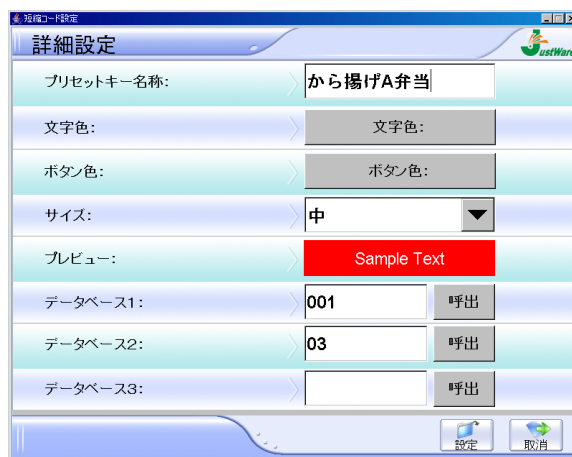
②. 「詳細設定」画面が表示されます。(図-イ)

プリセットキー名称を入力し、文字色、ボタン色、文字サイズを選択します。

選択したボタン表示のプレビューが表示されます。

ボタンに設定するデータベースのアイテムは、それぞれ「呼出」ボタンを押すとデータベース一覧が表示され、その中から選択し「設定」をします。

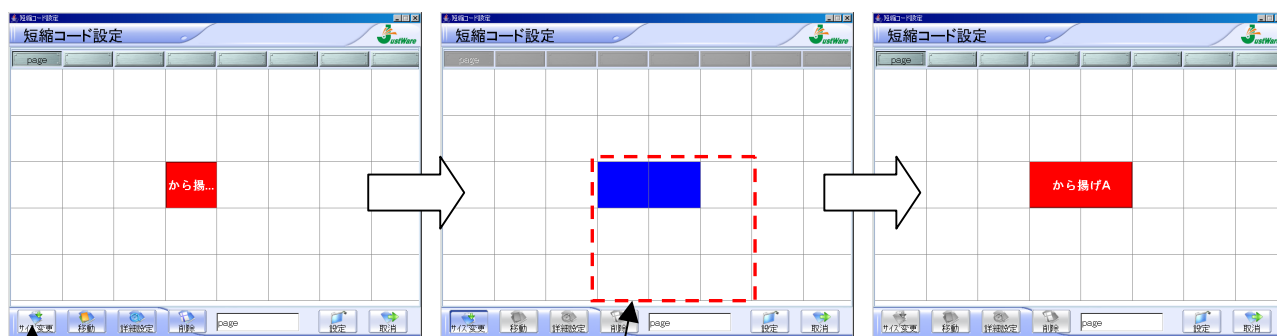
(図-イ)



③ ボタンサイズを変更する場合は、設定したボタンをクリックし、画面下の「サイズ変更」ボタンをクリックします。青色に反転した状態に変わります。

変更したい大きさの位置のマスをクリックするとサイズが変更されます。

最大は3×3 までです。

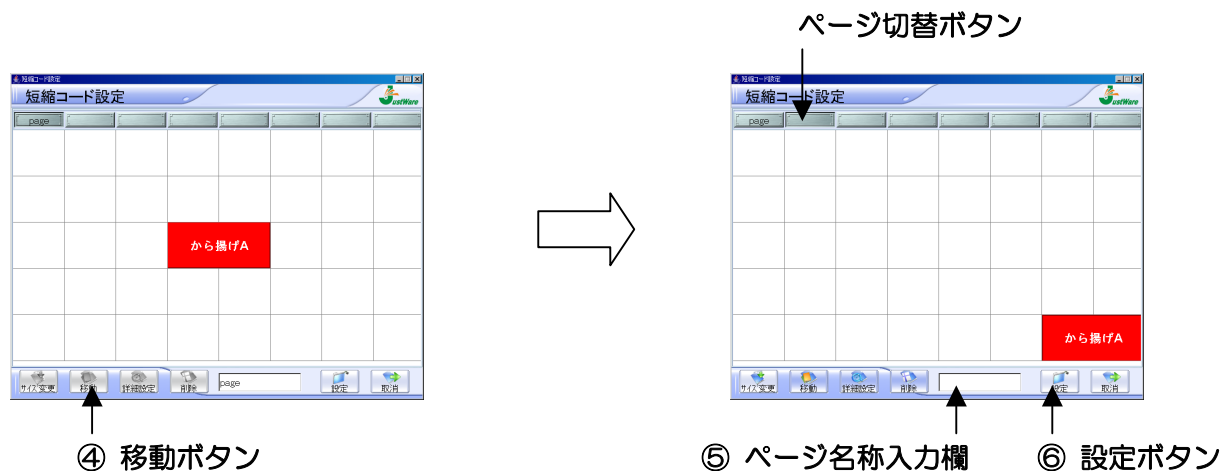


③ サイズ変更ボタン

最大サイズは 3×3

プリセット（短縮コード）作成

④ ボタンの位置を移動する場合は、移動させたいボタンを一度クリックして選択し、「移動」ボタンをクリックします。その後、移動させたい位置のマスをクリックすると、ボタンの移動ができます。違うページに移動させたい場合は、「ボタン選択」→「移動ボタンクリック」→「ページ切替ボタン選択」→「移動先マスを選択」の順番で操作を行います。



⑤ ページ名入力欄に名称(4文字)を入力すると、ページ切替ボタンに名称が表示されます。

⑥ 最後に「設定」ボタンをクリックすると、設定が保存され、「短縮コード設定」画面を終了し、データベース画面に戻ります。設定したボタン情報が「短縮コードファイル」に表示されます。最後に「短縮コードファイル」に名前を付けて保存をします。

番号	0:弁当説明	0:センター名	プリセットキー名	フォントサイズ	ボタン色	文字色	横位置	縦位置	横マ数	縦マ数	頁番号
00001	01		から揚げA弁当	1	9	12	6	4	2	1	1
行追加											

第 4 部

履歴管理

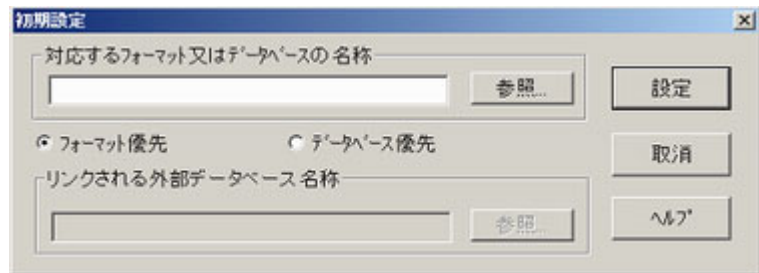
フォーマット内に「発行履歴」アイテムを設定することにより、ラベル発行時にさまざまなアイテムの発行履歴を記録することができます。履歴データ管理とは、このように記録された履歴データファイルをプリンタよりアップロードし、発行枚数の照会や管理、集計などをする時に利用するツールです。

履歴データ管理

「履歴データ管理」ツールではプリンタで記録された履歴ファイルをアップロードし管理・集計することができます。「スタート」ボタンを押して、「プログラム」の「GP サーバー」の「履歴データ管理」をクリックすると、「履歴データ管理」ツールが起動されます。以下、履歴データ管理における操作方法を説明します。

履歴ファイルの新規作成

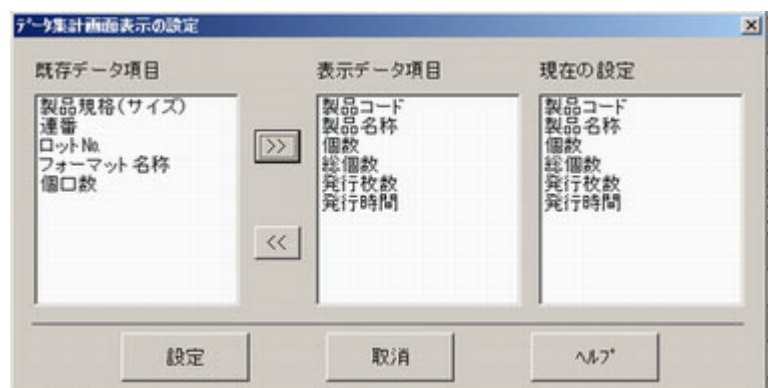
通常、履歴ファイルはGPプリンタからアップロードされます。但し、事前に履歴ファイルを作成しておき、GPプリンタからアップロードされ



た履歴データを既存の履歴ファイルに追加する方法もあります。メニュー「(1) ファイル」から「(A) 新規作成」又は、ツールバーの「新規作成」ボタンをクリックします。「初期設定」のウィンドウが出ますので、集計・管理したいフォーマットを「参照」より選択し、「設定」をクリックすると、指定のフォーマットに基づいて履歴ファイルが作成されます。フォーマットに設定されている「履歴データ」が自動的に履歴ファイルの列（データ項目）になり、その名称と桁数が「履歴データ」そのものと同じになります。「発行枚数」と「発行時間」の二項目は自動的に追加されます。「新規作成」には「フォーマット優先」と「データベース優先」があります。フォーマット優先で作成を行った時はGPプリンタから同名のファイルをダウンロードした時に上書き又は追加でデータを受取ることができます。データベース優先で作成を行った時は、最初に設定されたフォーマットをベースに履歴ファイルを作成します。次に、データベースに設定されているそのフォーマットファイルの履歴がダウンロードされたときは、データの数、長さが等しい時にはデータベース優先で作成された履歴ファイルに追加されます。

データ集計画面表示の設定

メニュー「(4) 設定」から「(F) データ集計画面表示の設定」を選択すると【データ集計画面表示の設定】ダイアログが表示されます。ここでは、データ集計画面で扱いたいアイテムを選択する事ができます。ここで選択するアイテムと順番がデータ集計画面での設定となります。



既存データ項目 履歴ファイル上に存在する全てのデータ項目を表します。

表示データ項目 発行時に表示するデータ項目を設定する場合、「既存データ項目」上から選択し、「>>」マークをクリックすると、選択されたデータ項目は、発行時表示データ項目へ移動します。発行時表示データ項目として選択したものを取り消したい場合は、そのデータ項目を選択し、「<<」マークをクリックすると、「既存データ項目」へ戻ります。

現在の設定 設定する時点でのデータ集計分析画面での表示項目を表します。

データ項目の設定

開いた履歴ファイルの各データ項目をダブルクリックして「データ項目の設定」に入り、「データ集計分析対象の設定」を行います。

データ属性 フォーマット作成時に設定したアイテムの情報です。この画面では変更・修正ができません。

データ種類 データ種類を設定します。半角文字は必ず英数字に、全角文字は和漢字に設定します。データを登録する時、データ種類によって全角入力モードと半角入力モードが自動的に切り換えられます。

リンクされる外部データ名称 このパラメータは、当該データ項目（列）が外部データベースのどのフィールド（列）と関連をつけるかを設定します。メニュー「設定」のサブメニュー「外部データベースリンクの設定」にリンクする外部データベースを設定しなければこのパラメータが有効にはなりません。参照ボタンを押すと、外部データベースにある全てのフィールドが表示されるので、その中から選んで設定して下さい。外部データベースとリンクする場合、全てのデータ項目が外部データベースのフィールドと関連を付けなければなりません。関連付けを設定すれば、外部データベースからデータをロードする時に、リンク先フィールド（列）のデータが自動的に当該データ項目（列）に入ってきます。

データ集計分析対象の設定 「分類対象」とは分類別で集計するときの分類となるデータ項目のことです。分類対象が1から5までありますが、これらは集計の際の大分類、大分類、中分類、中小分類、小分類とお考え下さい。例えば、月別・店舗別・商品別で売上を集計したい場合、月を分類対象1、店舗を分類対象2、商品を分類対象3と設定します。「集計対象」とは、内容が集計されるデータ項目のことです。先の例では、売上は集計対象になります。データの種類が英数字のもののみ「集計対象」に設定することができます。「発行時間」を分類対象に設定する場合、更に「発行時間分類設定」のパラメータを設定する必要があります。「発行時間分類設定」では、時間、日、月、のいずれかを分類対象とすることができます。

データ集計画面と分析について

集計範囲の設定

「履歴データ管理」の「データ項目の設定」で設定した「分類対象」が、順番に表示されています。分類対象の名称の左側にあるチェックボックスは、当該分類を集計するときに有効か無効かを設定するもので、チェックを入れると有効になり、画面上にある「合計」ボタンをクリックすることにより、分類別の集計、例えば担当者別や店舗別、商品別での集計が可能となります。さらにその下の二つのコンボボックスでは、各分類それぞれの表示や集計の範囲を決め、その範囲内においての合計や明細を表示させることも可能です。

並び替え

アイテムを並び替えたい場合、まず、並び替える対象になるデータ項目を指定するために、列セレクトバー／セレクト枠をそのデータ項目がある列へ持っていきます。次に、メニュー「検索」のサブメニュー「並び替え」を選択します。そうすると、設定ダイアログボックスが表示され、「並び替える対象データ」のところに指定したデータ項目の名称が表示されます。並び替える対象のデータは選択することが可能です。対象のデータは5項目まで選択することができます。データ項目が文字列の場合に「文字のコードに基づく」を選び、データ項目が数字の場合に「数値の大きさに基づく」を選びます。どういう順番でアイテムを並び替えるかを設定する事ができます。小さい文字コード／数値が先、大きい文字コード／数値が後の場合、「小→大」を選び、逆の場合に「大→小」を選びます。このボタンを押すと並び替えが始まります。並び替えが終わったら、結果がリスト画面に表示されます。注意してほしいのは、一旦データベースを並び替えてしまうと、元の順番に戻ることができないことです。ただし、並び替えがメモリの中で行われるので、もう一度元のデータベースをファイルからメモリにロードすれば、元の順番に戻ることができます。

明細合計表示

合計5	07401	GP-460R	500	65	13	2003/10/15
合計4	07401	GP-460R	500	65	13	2003/10/15
合計3	07401	GP-460R		340	80	
合計2	07401	GP-460R		340	80	
合計1	07401	GP-460R		340	80	
総計				880	246	

合計は小合計と総計に分類することができます。小合計はデータ項目の設定で分類対象に指定されたアイテムを対象に合計*として計算されます。計算を行う対象は集計対象に設定されたアイテムになります。集計分類の優先順位は分類対象1、分類対象2、分類対象3、分類対象4、分類対象5の順になります。優先順位を持つとは最初に優先順位の高いアイテムを最初に分けた後に、次に優先順位の高いアイテムの分類を行うと言う事です。

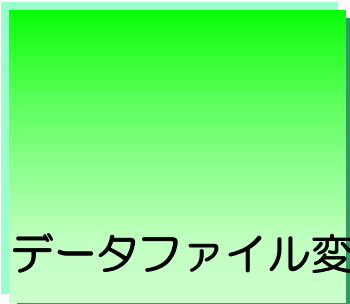
左の図では、合計1は2つあります。これは、GP-4000SとGP-4000Zを分けて計算を行っています。赤字が合計です。その後に分類対象2で分けられたデータを合計2で表現します。総計はそれらの合計です

No.	製品名称	ロットNo.	個数
00001	GP-4000S	6959874569	30
00002	GP-4000S	6959874569	30
00003	GP-4000S	6959874569	30
合計2	GP-4000S	6959874569	90
00004	GP-4000S	GF85-RT436	6000
合計2	GP-4000S	GF85-RT436	6000
合計1	GP-4000S		6090
00005	GP-4000Z	031015	2
00006	GP-4000Z	031015	2
合計2	GP-4000Z	031015	4
00007	GP-4000Z	ABCDEVGTR6	5600
00008	GP-4000Z	ABCDEVGTR6	5600
合計2	GP-4000Z	ABCDEVGTR	11200
00009	GP-4000Z	FGHJKKT	5600
00010	GP-4000Z	FGHJKKT	5600
合計2	GP-4000Z	FGHJKKT	11200
合計1	GP-4000Z		22404
総計			28494

第 5 部

GP データファイル変換

GPサーバーは、GPプリンター用のデータファイルを作る事を目的としています。そしてGPデータファイル変換は、①GPプリンターからCFカードに保存されたファイルをGPサーバーで扱えるようにする時②GPサーバーで作成された外部フォントをGPプリンターに送るとき③GPサーバーVer 1で作成されたファイルをGPサーバーVer 2用のファイルに変換する時④GPサーバーで作成されたファイルをCFカードを通じてGPプリンター用のファイルに変換する時に使用します。



GP データファイル変換とは

GPデータファイル変換は、ファイルの変換を行うツールです。変換形式は、「GP 460RⅡからGPサーバー・バージョン2」「GPサーバー・バージョン2からGP 460RⅡ」「GPサーバー・バージョン1からGPサーバー・バージョン2」の3形式をサポートしています。

GPサーバー・バージョン2からGP 460RⅡへの変換について

GPサーバー・バージョン2で作成されたファイルは通信を行ってGPプリンターで扱うことができますが、そのままGPサーバー・ファイルをカードにコピーしてもGP 460RⅡはこのファイルを扱うことができません。「GPデータファイル変換」によって変換されなければいけません。

GP 460RⅡからGPサーバー・バージョン2への変換について

GP 460RⅡで作成されたファイルはGPサーバーで通信を行ってGPサーバー側へ転送することによりGPサーバー・バージョン2で扱うことができるファイルになりますが、GP 460RⅡからカードに保存したファイルは「GPデータファイル変換」によって変換されなければ、GPサーバー・バージョン2は扱うことができません。

GPサーバー・Ver 1形式からGPサーバー・Ver 2形式への変換について

GPサーバーのバージョン1とGPサーバー・バージョン2では、ファイルの形式が異なります。即ち、GPサーバー・バージョン2ではGPサーバー・バージョン1で作成されたファイルを扱うことができません。「Ver.1・ファイル→Ver.2・ファイル」はこの問題を解決するために、GPサーバー・バージョン1のファイルをGPサーバー・バージョン2のファイルに変換します。

画面の構成

次は【図 5-1】を基に、画面の構成に関する説明をしていきます。

【図 5-1】

変換フォルダ

このフォルダにパスが設定されていないと変換は行えません。ここで指定された

フォルダから変換可能なファイルを探し出し、指定されたフォルダに変換されたファイルを作成します。参照ボタンをクリックすると、パスを参照してセットする事ができます。

変換形式・変換方式

変換形式は前に述べたように3形式あります。履歴ファイルの変換を行う時のみファイルの上書きと追加が有効になります。上書きは以前のデータを無視してファイルにデータを書き込みます。追加は以前のデータの項目に追加としてデータが書き込まれます。

リストボックス

この【図 5-1】の中央にあるリストボックスに変換対象ファイルの情報が表示されます。変換対象ファイルは、

- ① GPサーバー・ファイル→GPプリンター・ファイルでは、フォーマットファイル、データベースファイル、スケジュールファイル、短縮コードファイル、外部フォントファイルです。
- ② GPプリンター・ファイル→GPサーバー・ファイルでは、フォーマットファイル、データベースファイル、短縮コードファイル、外部フォントファイル、履歴ファイルです。
- ③ Ver.1ファイル→Ver.2ファイルでは、フォーマットファイル、データベースファイル、画像ファイルです。

ファイル自動変換の設定

メイン画面から「ファイル自動変換の設定」を選択すると【ファイル自動変換の設定】ダイアログが表示されます。ここでは、ファイルの自動変換に関する設定を行う事ができます。また、ファイルの自動変換中にはこのダイアログを開く事はできません。

【図 5-2】

GPプリンター・ファイル→GPサーバー・ファイルの自動変換

この自動変換は、フォーマットファイル・データベースファイル・履歴ファイルの変換を行います。ファイルが自動変換される条件はGPサーバーフォルダ名に指定されたディレクトリーに変換対象となるファイル名が存在しない（例えばJUSTWARE. GPFと言うファイルを変換する時には、JUSTWARE. GSFというファイル）時と、変換を行いたいファイルの更新時間が、ファイルが変換された時間を上回った時です。履歴ファイルの場合のみ上書きと追加の変換方式を選択する事ができます。

GPサーバー・ファイル→GPプリンター・ファイルの自動変換

この自動変換は、フォーマットファイル・データベースファイル・スケジュールファイル・短縮コードファイルの変換を行います。ファイルが自動変換される条件はカードドライブ名に指定されたディレクトリーに変換対象となるファイル名が存在しない（例えばJUSTWARE. GSFと言うファイルを変換する時には、JUSTWARE. GPFというファイル）時と、変換を行いたいファイルの更新時間が、ファイルが変換された時間を上回った時です。

第 6 部

外部フォント作成

外部フォント作成は、GP サーバー用の外部フォントを作る事を目的としています。設定可能なフォントの種類とサイズで外部フォント1から外部フォント8まで作成する事ができます。

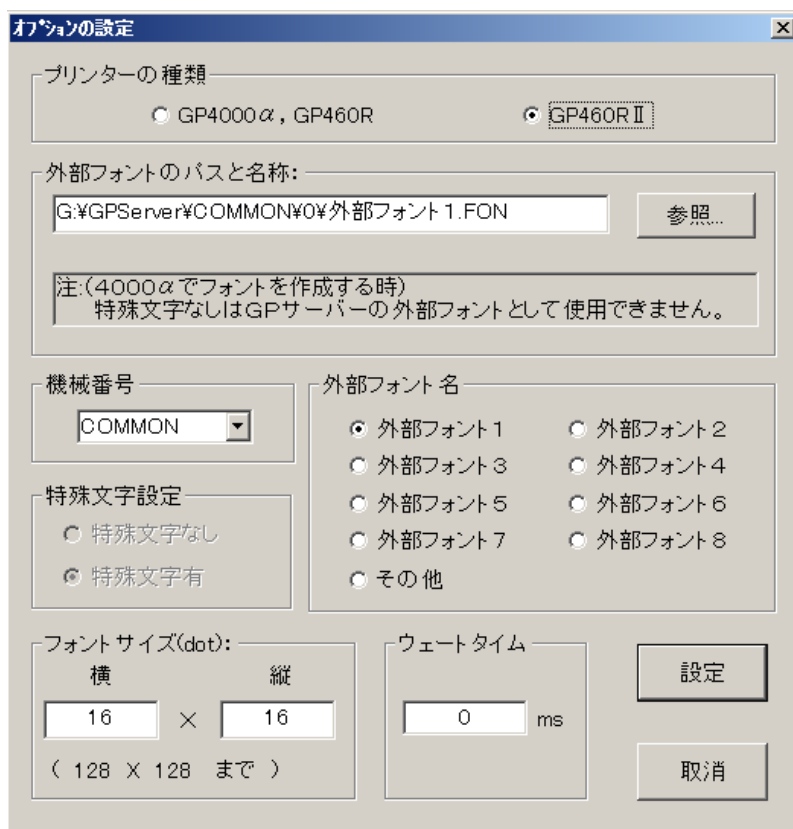
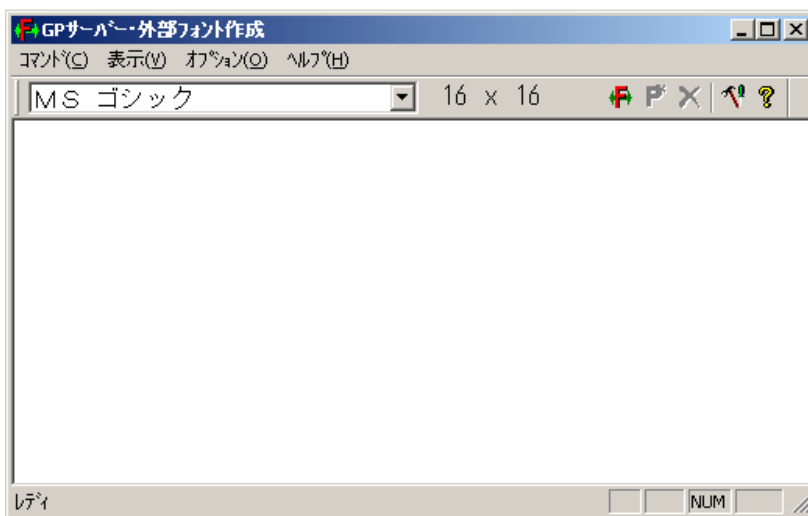
外部フォントの作成方法

外部フォント作成のメイン画面ではフォントの種類を設定する事ができます。ここで作成される外部フォントはGPサーバー用の外部フォントになります。GPプリンター用のフォントとしても使用する事ができますが、この場合はGPデータファイル変換でGPプリンター用の外部フォントに変換する必要があります。

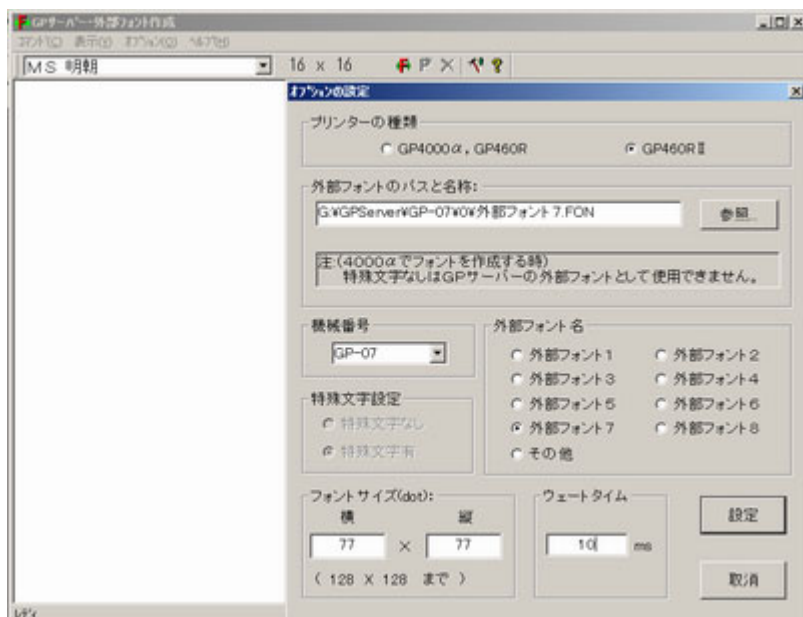
外部フォントを作成すれば標準フォントと同じようにフォーマット作成で使用する事ができます。外部フォントには3種類あります。GP4000α・GP460R用の2種類とGP460RⅡ用の1種類です。GPサーバーでは、前者の特殊文字無しは使用する事ができません。また前者は、外部フォント1～外部フォント4まではカード1に外部フォント5～外部フォント8まではカード2に保存する必要があります。後者は、外部フォント1～外部フォント8までをカード0に保存する必要があります。使用時にははじめにCOMMONのフォルダを探した後に、それぞれの機械番号のフォルダを探すと言った優先順位を持ちます。

オプションの設定

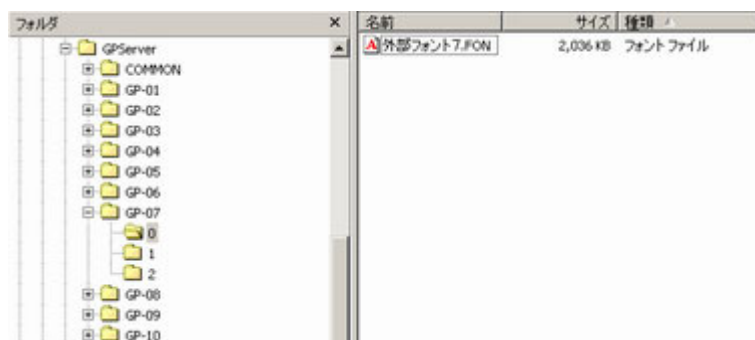
この画面で設定する必要があるのは、プリンターの種類・外部フォントのパスと名称・フォントサイズです。フォントサイズは128dotまでの任意の自然数を設定する事ができます。



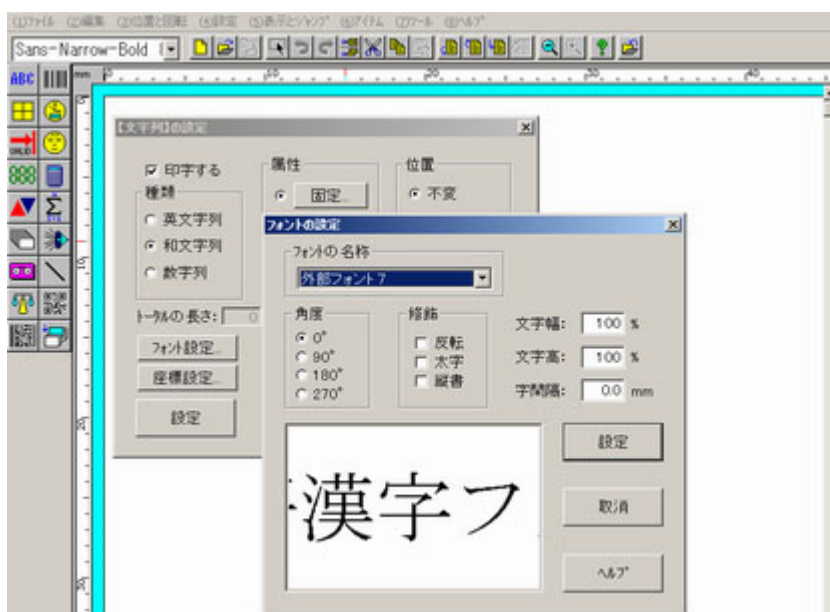
フォーマットでの外部フォントの使い方



① プリンターの種類、外部フォントのパスの名称、フォントのサイズを設定した後フォントを作成する事ができます。今回は、機械番号7に460R II用の外部フォント7を作成します。



② 外部フォント7が指定のフォルダに作成されます。今回はセットアップのディレクトリの機械番号7のカード番号1に外部フォント7が作成されました。



③ 作成された外部フォント7は、機械番号7にフォーマットファイルが作成された時に左の画面のように設定する事ができます。